

履修ガイド

Class handbook 2022

2022年度

技能工芸学部

ものづくり大学 基本理念

1. ものづくりに直結する実技・実務教育の重視
2. 技能と科学・技術・経済・芸術・環境とを連結する教育・研究の重視
3. 時代と社会からの要請に適合する教育・研究の重視
4. 自発性・独創性・協調性をもった人間性豊かな教育の重視
5. ものづくり現場での統率力や起業力を養うマネジメント教育の重視
6. 技能・科学技術・社会経済のグローバル化に対応できる国際性の重視

本学の目的および使命

高度な技能と技術を融合した実践的な技能工芸に関する教育及び研究を行い、加えて豊かな社会性・創造性・倫理性を身につけた技能技術者を育成することを目的とし、あわせてものづくりに対する社会的評価の向上と世界の発展に貢献することを使命とする。

ディプロマ・ポリシー（技能工芸学部）

本学は建学の基本理念に則り、ものづくりに対する社会的評価の向上と世界に貢献することを使命とし、高度なものづくりに対応できる基礎学力と専門的知識および高度な技能技術を持ち合わせたテクノロジストを育成し社会に輩出することを目的にしている。

特に、本学を卒業するテクノロジストには、ものづくりへの誇りと真摯さを身につけ、自らに一流の仕事を要求し、常に基準を高く定め、ものづくりにアプローチすることが期待されている。

そのためにテクノロジストとして必要な基礎学力、専門的知識、技術技能に合わせ、以下の能力を身につけ、卒業要件を満たした者に学位（技能工芸学）を授与する。

- ① ものづくりを実践することから得られる創意工夫する力(現場力)
- ② 課題を見出しチームで協力したり、リーダーとなって解決する力(課題設定・解決力、マネジメント力)
- ③ 困難に向き合い乗り越える力（耐力、胆力）
- ④ 異文化など多様性を受容、尊重でき、科学技術、社会経済のグローバル化に対応できる力（協調力）
- ⑤ 価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合える力（コミュニケーション力）

2022 年度
ものづくり大学 履修ガイド

— 目 次 —

A. 履修要項 (両学科共通)	1
1. 基本事項	3
2. 学籍	5
3. 授業	7
4. 単位制と科目区分	9
5. 履修について	11
6. インターンシップ	15
7. 主専攻・副専攻と卒業研究および制作	17
8. 試験	18
9. 成績評価及び単位の認定	20
10. 進級要件・卒業要件	24
B. カリキュラム (情報メカトロニクス学科)	27
Ⅰ. カリキュラム (教育課程)	29
Ⅱ. 授業科目	35
C. カリキュラム (建設学科)	47
Ⅰ. カリキュラム (教育課程)	49
Ⅱ. 授業科目	57
Ⅲ. 資格関連指定科目	69
D. 教養教育	75
Ⅰ. カリキュラム (教育課程)	77
Ⅱ. 授業科目	80
E. 特色ある科目	83

A. 履修要項

(両学科共通 2022 年度入学者適用)

※履修要項は入学時から卒業までの修学規定
を定めたものであるため、これをしっかりと熟読のうえ、学業計画をたててください。

1. 基本事項

履修とは、「決められた学科・課程などを習い修めること（広辞苑）」を意味します。

大学では学生が自ら履修計画を立て、履修登録を行い授業に出席し合格点以上の成績をとることで、単位を修得します。履修登録をはじめとして各種申請や届出等については、学生本人の責任において定められた期限を厳守しなければなりません。

※ 学生生活全般に関わる各種申請、届出の詳細は、「ものづくり大学学生便覧 学生生活ガイド」で確認してください。

(1) 年間スケジュール

毎年4月のガイダンスでの配布資料や「ものづくり大学学生便覧 学生生活ガイド」、掲示などで確認できます。

(2) 事務取扱時間

- ① 事務窓口の取扱時間は次のとおりです。土・日・祝祭日や時間外の取扱いはできません。

教務係	月～金曜日	9：00～17：30
学科事務室	月～金曜日	8：45～17：30

※ 入学試験日等、構内立入禁止となる場合、窓口業務は行いません。

※ 祝祭日が授業日となる場合、窓口業務は行います。

- ② 証明書自動発行機（大学本部棟1階学生ロビー）の稼働時間は次のとおりです。

月～金曜日	9：00～17：30
-------	------------

※ 入学試験日等、構内立入禁止となる場合、利用できません。

※ 証明書自動発行機の利用には、学生証が必要です。

※ 祝祭日が授業日となる場合、証明書自動発行機は利用できます。

(3) 掲示・連絡

- ① 大学から学生への連絡は掲示によって行います。掲示を見なかったために生じる不利益は学生本人の責任となります。

休講、教室変更、ガイダンス開催日時、呼出し等、必ず各学科の掲示板、授業担当教員からの指示を確認してください。遠隔授業に関する情報等は Google Classroom で行われる場合もあります。

一部情報は講義関連情報掲示板からも見ることができます。

講義関連情報掲示板QRコード



講義関連情報掲示板 URL

<https://www.iot.ac.jp/cgi-bin/campuslife/lecture/information/index.cgi>

- ② 授業の情報や履修に関する問い合わせは、電話では受け付けません。掲示を確認するほか、必要のあるときは、教務係窓口で相談してください。

(4) 教員への連絡

学生から教員へ連絡や相談がある場合は、授業の前後やメール等によりアポイントをとり、研究室を訪ねるか、オフィスアワー（教員が相談のために研究室在室とする時間）を利用してください。教員のアドレスは、ポータルシステムのキャビネット一覧から確認できます。

非常勤講師の場合は個人研究室がありませんので、授業の前後にアポイントをとるようにしてください。（非常勤講師が担当する授業には、常勤の窓口教員が配置されていますので、窓口教員に相談してください。）

(5) 住所等の変更

学生・保証人の住所、連絡先等に変更があった場合は、教務係窓口にて所定の用紙に記入し、速やかに届け出てください。

(6) 自然災害等による JR 高崎線の運行停止や気象条件の悪化が予測される場合の授業（試験を含む）の取り扱い

①前日の午後の時点で、翌日の天候悪化、交通機関の混乱など、授業への支障が予測される場合	午後 4 時までに学内の掲示やホームページで休講等の措置を周知
②当日の午前 6 時の時点で高崎線が東京と高崎の間で運行されていない場合	1・2 時限を休講 午前 6 時にホームページで周知
③当日の午前 9 時現在において高崎線が東京と高崎の間で運航されていない場合	3 時限以降休講 午前 9 時にホームページで周知

そのほか、通常の通学経路上で自宅近傍等の交通機関の遅延及び不通の場合、駅で交付された遅延証明書、または不通証明書を持参した場合は適宜考慮します（但し、路線バスは除きます）。

(7) 履修要項の適用

本履修ガイド及び履修に関する規定は、入学年度のものを卒業まで適用します。

但し、授業科目名や授業担当教員の変更、新規授業科目の開講等もありますので、ガイダンスへの出席及び掲示等で確認してください。

(8) 学生証

学生証は、ものづくり大学の学生であることを証明するものです。必ず携帯してください。

学生証は、授業の出席確認・学期末試験の受験・各種証明書の発行・コンピュータ演習室等への入室・図書情報センターへの入館・通学定期の購入などで必要となります。

学生証は折り曲げたり、強い磁気等の傍において異常が発生したりしないように、丁寧に保管してください。

学生証を紛失、破損等をした場合は、速やかに再発行手続き（手数料 3,000 円）を教務課窓口で行ってください。

2. 学籍

(1) 在学期間

本学の学部教育課程を修了するために必要な期間（修業年限）は4年であり、編入学生等を除き、原則として、卒業までに4年以上の在学期間が必要です。また、編入学生を除き在学可能な最長期間（在学年限）は8年間です。

8年間もしくは所定の在学年限を経過しても、卒業要件を満たさなかった場合は除籍となります。なお、休学期間は在学期間を含めません。また、停学期間は修業年限に含めませんが（1ヶ月以下の停学はこの限りではない）、在学年限には含めます。

(2) 留年

進級要件・卒業要件を満たさなかった場合は、留年となります。進級要件・卒業要件については、後述の「10. 進級要件・卒業要件」を参照してください。

(3) 休学

病気、ケガ、その他やむを得ない理由により2ヶ月以上修学できない場合は、担任教員に相談後、教務係窓口にて休学願を提出してください。

休学期間が満了した場合は、自動的に復学となります。許可された休学期間の途中で復学する場合は、担任教員に相談後、教務係窓口へ復学願を提出してください。

休学中は、授業料等学生納付金を減免します。

(4) 退学

退学には、自主退学を希望し許可される場合と、懲戒処分により退学を命じられる場合があります。

退学を希望する場合は、担任教員に相談後、教務係窓口へ退学願を提出してください。退学許可日は各クォータ末日付けとなります。退学までの授業料等学生納付金は徴収されます。

(5) 除籍

次の者は、除籍となります。

- ① 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- ② 在学可能な最長期間（8年）を超えた者
- ③ 休学可能な最長期間（通算4年）を超えてなお修学できない者
- ④ 死亡または長期間にわたり行方不明の者
- ⑤ 外国人留学生で在留資格を失効した者
- ⑥ その他、①～⑤と同等の事由により、学長が除籍相当と判断した者

(6) 停学

停学を命じられた場合は、停学期間中の授業科目の履修はできません。無期停学の場合は解除日の翌日から復学、有期停学の場合は期間満了の翌日から復学となります。

(7) 再入学

本学を自主退学した後に再度入学を希望する場合は、入学を希望する学期の2ヶ月前までに入試係窓口で所定の手続きを行ってください。

出願できる学科は、在学時に所属していた学科に限ります。

(8) 転学科

転学科を希望する場合は、担任教員に相談の上、教務係窓口で所定の手続きを行ってください。

転学科の許可は、原則年度初め(4月)となります。

(9) 外国人留学生

大学は、在留管理を徹底して行うことが義務付けられていることから、外国人留学生は、毎月、月初に学生支援・留学生係で月次在籍管理を行ってください。

在留カードは、留学生としての身分を証明するものです。学生証と同様、必ず携帯してください。

3. 授業

本学では、クォータ（4 学期）制により、一つの授業科目が比較的短期間で完結します。併せて、実習・実験・演習を取り入れた授業科目が多いことから、学生の積極的な授業への参加が求められます。

授業科目の内容等は、後述の「B. C. カリキュラム」、及び web シラバスを必ず参照してください。

(1) 授業期間

クォータ（4 学期）制により、授業を実施します。授業期間は年間スケジュールで確認してください。

1 クォータは 7 週間で授業を 7 回実施し、引き続き 1 週間強の補講・補習週で構成されています。補講・補習については後述の「(8) 補講・補習・補充授業等」を参照してください。

※ 授業期間の他に、土日や夏季・学年末休業中に開講する集中講義があります。授業開講日等は、掲示または時間割表を確認してください。

(2) 授業時間

授業時間は 1 時限（1 コマ）＝100 分とし、次のとおりです。

時限	時間
1	9 : 00～10 : 40
2	10 : 50～12 : 30
昼休み	12 : 30～13 : 30
3	13 : 30～15 : 10
4	15 : 20～17 : 00
5	17 : 10～18 : 50

※ 5 時限目は、配当される授業のほか、補講・補習・補充授業、各種のガイダンス等があります。

(3) 授業時間割

授業時間割表は、4 月のガイダンスで配布するほか、ホームページで公表します。

開講時間や教室の変更は、授業担当教員が指示を行うか、掲示を行いますので、毎日確認してください。

(4) 振替授業日

クォータごとの授業回数が曜日によって不足する場合は、祝日を振り替えて授業を実施します。祝日に授業が開講され、平日が振替休業となります。詳しくは、年間スケジュールを確認してください。

(5) 休講

行事等による休講（入試や学園祭関係等）や、夏季休業、冬季休業、学年末休業は、年間スケジュールを参照してください。

授業担当教員が学会への出席や公務等で休講になる場合は、掲示等で連絡します。

休講の掲示または連絡がなく、授業開始時間から 20 分経過しても授業が行われない場合は、教務係窓口で確認してください。

(6) クラス

授業は、学科別、クラス別またはコース別を実施します。クラスによって開講場所等が異なりますので、所属するクラスで受講してください。

授業によっては、開講前に行われるテストにより、能力別クラスとなる場合があります。

(7) 授業への出欠

授業の出席は出席管理用カードリーダーに学生証（ICカード）を読み取らせる形式のため、授業には必ず学生証を持参してください。また、遠隔授業の出席は Google Classroom を活用するなど、科目ごとに出席の取り方が異なる場合がありますので注意してください。

学生本人の都合や病気等で欠席する場合の電話連絡は不要です。

やむを得ない理由で欠席した場合は、各窓口にて手続きをすることにより「欠席届」を授業担当教員に提出することができます。但し、学生本人の都合や病気等で欠席する場合を除きます。

感染症（COVID-19 やノロウイルス等）や重篤な負傷等の場合は、学生支援・留学生係（kosei@iot.ac.jp）への連絡が必要です。

欠席理由	欠席届の配布及び提出先
忌引き（3 親等以内）	教務係窓口 （会葬礼状を添付し提出）
2 週間以上の長期欠席（疾病、入院等）	教務係窓口 （診断書や必要な療養日数等が明記された診断書を添付し提出）
インフルエンザ、COVID-19、ノロウイルス等の感染症	
就職活動	就職・インターンシップ係窓口
企業主催のインターンシップ	

遅刻は、各人が授業担当教員に事情を説明し、授業担当教員の指示に従って出席の確認を行ってください。電車の遅延による遅刻の場合、吹上駅の遅延証明書は不要です。安全に配慮し、余裕をもった通学に心掛けてください。

欠席や遅刻の扱いは、授業担当教員が判断します。

(8) 補講・補習・補充授業等

時間割で公表された授業以外に補講・補習・補充授業を実施することがあります。

- ① 補講は、休講等によって授業回数が不足した場合に実施する授業です。
- ② 補習は、受講学生の習熟度をさらに深め、単位修得を支援する授業です。受講については授業担当教員から指導があります。
- ③ 補充は、不合格となった学生を対象に翌学期以降に受講学生の単位修得を支援するために実施する授業です。受講については授業担当教員から指導があります。補講・補習・補充授業は、原則として 5 限目や第 8 週（補講・補習週）に実施されます。詳細な実施方法については、授業担当教員から事前に告知があります。

4. 単位制と科目区分

(1) 単位制

履修登録した授業科目の授業に出席し、かつ合格点以上の成績をとることで、科目の定める単位を修得することができます。通常、4年以上在学し、修得単位が卒業要件を満たした場合に卒業が認められます。

(2) 単位数の基準

各授業科目の単位数は、授業の形態によって授業の総時間数と予習・復習などの自習時間（時間外学修）の合計学修時間数を基準としています。1単位の修得に必要な学修時間数は次のとおりです。

	授業	自習	参考
①講義・演習	15 時間	30 時間	1コマ授業 1クォータ履修=1 単位
②実験・実習	30 時間	15 時間	2コマ授業 1クォータ履修=1 単位
③講義および実習	30 時間	37.5 時間	2コマ授業 1クォータ履修=1.5 単位

※ ここでの「1時間」は授業 45分を意味します。

(3) 科目区分

授業科目の区分は、授業の実施形態による二つの形態区分と、履修上の分類による三つの履修区分があり、学科ごとに指定されています。

科目区分	
形態区分	教養科目
	専門科目
履修区分	必修科目 卒業要件として必ず履修し、原則として当該年度に単位を修得しなければならない科目です。単位を修得できなかった場合は、再履修して単位を修得する必要があります。
	選択必修科目 指定された一群の授業科目の中から選択して履修し、卒業要件として定められた単位数以上を修得する必要のある科目です。
	選択科目 開講授業科目の中から、自由に選択して履修でき、合格した場合は卒業要件としての総単位数に算入されます。不合格の場合、再履修するか否かは任意です。

(4) ナンバリング

授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。

本学では次のとおり表記しています。

所属学科などの属性 科目配当 順序・カリキュラムツリーとの関連
 (第1区分) — (第2区分) — (第3区分)

履修希望科目の受講のために、履修しておくことが望ましい又は修得が要件となる場合があります。

履修計画を立てる際に、必ず、カリキュラムツリーと共にナンバリングを参考にしてください。

第1区分：所属学科などの属性

【1桁目】学科等：大学院(G)、情報メカトロニクス学科(M)、建設学科(B)

【2桁目】学年：1年～4年、大学院1,2年(1～)

【3桁目】コース等：情報メカトロニクス(A/R/M/P)、建設(T/S/F/D)、
共通C(教養教育・コース配属前：1年次から2年次2Qまで)

第2区分：科目配当

【4桁目】履修区分：必修(1) 選択必修(2) 選択(3)

【5桁目】科目区分：教養科目(1) 専門科目(2) IS(3)

【6桁目】授業形態：講義(1) 演習(2) 講義および演習(3)
実験実習(4) 講義および実験(実習)(5)

第3区分：順序・カリキュラムツリーとの関連付け

【7桁目】分野：あいうえ・・・

【8・9桁目】コード：01～

5. 履修について

大学での授業は、学生各自が自主的に履修計画を立て、指定された期間内に所定の手続きを行って履修登録をしなければなりません。

原則として、所属する年次に配当された授業科目、所属するクラスの授業科目を履修します。それ以外の場合は後述の「(9) 所属年次以外の授業科目の理由」「(10) 他コース・他クラスの授業科目の履修」を参照してください。

履修の手続きは、ものづくり大学ポータルシステム（以下ポータルシステム）を利用して行います。

(1) ガイダンス

学科、学年ごとに、履修登録に関するガイダンスを実施します。実施日時等は、事前に掲示しますので必ず出席してください。

(2) 履修登録期間

履修登録は、指定された期間内に行わなければなりません。**指定された期間以外は登録できません。**

本学では、次年度の授業科目の履修登録を前年度の1月に実施しています。この登録で、実習などの定員が必要となる科目の登録者を調整します。

履修登録期間は、事前掲示や大学ホームページ予定表で確認してください。

(3) 履修登録方法

各自、指定された履修登録期間内に、ポータルシステムにより、履修科目を入力してください。入力方法や入力すべき履修期間の日程等の詳細は、ガイダンスで説明するか事前に掲示を行います。

履修登録期間を過ぎた場合は受理しませんので、注意してください。また、休学中あるいは長期欠席等により履修登録できない場合には、担任教員または教務係に相談してください。

1年次の第1クォータに履修すべき授業科目は、すべて登録されているため登録作業は不要です。第2クォータの授業科目から各自で登録することになります。このためのガイダンスの日程は、別途掲示等でお知らせします。

(4) 履修登録結果の確認

履修登録した結果を確認するための履修登録・確認・変更期間があります。指定の期間内にポータルシステムで登録結果を確認し、登録ミスがある場合は必ず履修変更の手続きをしてください。

(5) 履修登録変更

履修登録の変更を希望する場合は、履修登録・確認・変更期間に、ポータルシステムにより行ってください。

履修変更期間を過ぎた場合は変更できません。授業担当教員の承認が必要な場合は、前述の「1. 基本事項、(4) 教員への連絡」を参考に事前にアポイントをとってください。

計画的に行動し期限内に手続きを完了してください。

(6) 履修取消と履修削除

履修取消とは、授業の内容が学びたい内容と違う、授業の内容が難しくついていけないなど、受講目的が達成されない場合に利用できる制度です。授業を履修せず履修取消を行わない場合、GPA（「9. (5) GPA制度について」を参照）が下がってしまいますが、履修取消をすることでそれを回避できます。進級要件に定められているGPA1.0以上を得るためにも、履修取消を適切に実施し、GPAが下がることがないようにしてください。

履修削除とは、履修登録・確認・変更期間に履修登録した科目を削除できる制度です。

履修取消と履修削除の違いは以下のとおりです。

項目	履修取消	履修削除
手続き方法	ポータルシステム	ポータルシステム
手続き期間	履修取消期間（各クォータ第3回の授業までの間）	履修登録・確認・変更期間
GPAとの関係	対象外	対象外
CAP（「(7) 履修上限（CAP制）」を参照）	取消した科目は含まれる	削除した科目は含まれない

(7) 履修上限（CAP制）

CAP制とは、単位の過剰登録を防ぐため、1年間に履修登録できる単位の上限を設ける制度です。この制度は、大学の授業の時間数に加え、一定時間数の予習、復習をすることで十分な学修に必要な時間を確保するための措置です。

本学では、年間の履修登録上限を48単位までとしています。但し、集中講義科目、通年科目は上限単位数に含みません。

GPA3.5以上の優秀学生は、必要手続きを経て上限50単位までの履修登録が可能となります。

単位を修得しないことを前提に聴講を希望する場合には、事前に授業担当教員に相談してください。

(8) 重複履修

下表のとおり、重複して履修することはできません。重複した科目は全て無効となり登録されないため、単位は修得できません。

重複履修の禁止	
① 同じ曜日・時限に2科目以上の授業科目を重複履修	履修登録・確認・変更期間に手続きをする必要があります。
② 同一科目を、他クラス・他の時限等で重複履修	履修登録・確認・変更期間に手続きをする必要があります。所属クラスでの履修が優先です。
③ 単位修得済みの授業科目を再履修	単位修得済みの授業科目は再履修できません。既に修得した単位の取り消しや変更もできません。

(9) 所属年次以外の授業科目の履修

所属年次以外の科目を履修できる場合は、次のとおりです。但し、履修は当該科目が配置されている年次の学生が優先されるため、定員制科目等は受講できないことがあります。

配当年次以外の科目の履修	
① 上級年次科目	所属年次よりも上級年次に配当されている科目を履修する場合は、 <u>授業担当教員の承認を得て</u> 、教務係窓口で所定の手続きをすることで履修することができます。
② 下級年次科目	所属年次よりも1学年下級年次に配当されている選択必修科目又は選択科目は、履修登録手続きをすることで履修することができます。

(10) 他コース・他クラスの授業科目の履修

授業科目によっては履修状況などを踏まえ、教務係での所定手続きを経て許可を得た場合、他のクラスの授業科目を履修することが可能です。

定員制限のある科目ではクラス、コースの所属学生が優先のため、他クラス、他コースの学生は受講できないことがあります。

基礎課程において許可なく他クラスの授業科目を履修登録しても無効となります。

クラス、コース指定のある授業科目の場合は、正しく履修登録した上、指定されたクラス、コースで受講してください。他のクラスコースの授業に出席しても単位は修得できません。

(11) 集中講義等

授業科目により、集中講義（夏期講座、春期講座）として開講する場合があります。

集中講義は、履修登録方法、開講時期、成績評価の時期等が異なりますので、注意してください。詳細は、授業担当教員から説明があるか、事前に掲示を行います。

(12) 他学科授業科目

原則として、所属する学科の授業科目を履修します。他学科科目を履修する場合は、所定の用紙に記入し、履修登録・確認・変更期間内に授業担当教員の下承を得て、教務係窓口へ提出することで履修が可能です。

他学科の授業科目を履修した場合、その学科での履修区分に関わらず、すべて選択科目として取扱います。

他学科科目の修得単位は、16単位まで卒業要件として総単位数に算入することができます。但し、転学科によって転向した学科で単位認定された場合は、この限りではありません。

所属学科の学生が優先のため、定員制科目等は受講できないことがあります。

(13) 放送大学

放送大学の授業科目の受講を希望する学生は、教務係窓口にて放送大学特別聴講学生の申請を行うことができます。事前に掲示を行いますので、注意してください。

本学にて指定の期間内に申請した場合、放送大学への入学金が免除されます。

(14) カリキュラム年度と新規科目等

入学年度のカリキュラムが、卒業まで適用されます。但し、授業展開の都合や関係省庁の指導通達によって、カリキュラム変更や科目名称変更、新規科目開講、予定科目開講取止めなどが生じる場合もあります。学生各自は、折々のガイダンスなどで公表される授業科目新旧対応について十分注意して、履修に不備がないようにしてください。

特に、必修科目及び選択必修科目は、入学年度に指定された科目を履修することが進級要件にも関係することになりますので、留意のうえ授業履修計画をたててください。

6. インターンシップ

本学では、ものづくりに関連する現業での実務体験を行う目的で、2年次に基礎インターンシップ（実働40日）、4年次に専門インターンシップ（実働20日・40日）を開講しています。

インターンシップを履修するためには大学の指定する学生のための「学生総合保障制度」（入学時に手続き）、または「学研災付帯賠償責任保険」（インターンシップ実施前に大学側で一括手続き）に必ず加入しなければなりません。

(1) インターンシップの種類

情報メカトロニクス学科

2年次に必修科目である基礎インターンシップを履修します。

4年次では選択科目として専門インターンシップが配当されています。

学年	区分	科目名
2年次	基礎インターンシップ (必修/実働40日)	基礎インターンシップ
4年次	専門インターンシップ (選択/実働20日または40日)	専門インターンシップⅠ(20日)
		専門インターンシップⅡ(40日)

建設学科

2年次に必修科目である基礎インターンシップとして、一般基礎インターンシップ、建築士基礎インターンシップあるいは測量基礎インターンシップのいずれかから選択し、履修します。

4年次では選択科目である専門インターンシップとして、一般専門インターンシップ、建築士専門インターンシップ及び測量専門インターンシップが配当されています。

学年	区分	科目名
2年次	基礎インターンシップ (必修/実働40日)	一般基礎インターンシップ
		建築士基礎インターンシップ
		測量基礎インターンシップ
4年次	専門インターンシップ (選択/実働40日)	一般専門インターンシップ
		建築士専門インターンシップ
		測量専門インターンシップ

(2) インターンシップの履修条件

1年次に実施されるインターンシップ説明会に必ず出席してください。またインターンシップを履修するには、基本的な社会常識を身につけていること、真摯な態度で授業に取り組んでいることが前提です。各学科の履修条件は下記のとおりです。

情報メカトロニクス学科

① 基礎インターンシップ（2年次第2Q）

担当教員と面談し、承認を得ることが必要です（面談結果によっては研修先を変更する場合があります）。また、安全・衛生および技能技術に関する基本的な素養を身につけておくことが求められるため、「安全衛生」を修得していることが条件となります。更に「救命衛生法」についても、履修していることが望ましいです。

② 専門インターンシップ（4年次第1Q～第3Qの間）

将来の進路、「卒業研究および制作」の状況等に基づいて所属研究室の指導教員と相談の上、履修します。したがって、インターンシップ先は原則として指導教員の指示により決定されます。なお、「基礎インターンシップ」を修得していることが専門インターンシップの履修条件となります。

③ インターンシップの成果発表

インターンシップに関わる各種報告書とともに、履修成果の口頭発表とポスター発表を義務付けています。

建設学科

① 基礎インターンシップ（2年次第2Q）

建設現場、事務所、工場等での実習環境において、安全・衛生および技能技術に関する基本的な素養を身につけておくことが求められるため、「安全衛生」を修得していることが条件となります。更に「安全工学」や「救命衛生法」についても、履修していることが望ましいです。

② 専門インターンシップ（4年次第1Q～第3Qの間）

履修に関しては所属研究室の指導教員の指導を参考とし、就職活動や「卒業研究および制作」の計画を踏まえ、選択の有無を定めてください。なお、これまでの授業で建設に関連した知識を一通り修得し、且つ、「基礎インターンシップ」を修得していることが専門インターンシップ履修の条件となります。

7. 主専攻・副専攻と卒業研究および制作

主専攻とは、全学生を対象に特定分野の専門知識と技術・技能の修得を目的に、応用課程に置かれた4コースから選択した一つのコースを指します。副専攻とは、希望学生を対象に幅広く専門知識と技術・技能の修得を目的に、主専攻とは異なるコースから選択した一つのコースを指します。

「卒業研究および制作」は、授業科目等で学修した知識や技能技術をもとに、各自が自立したテクノロジストになるために、教員の個別指導を受けながら研究や設計・制作を実施するものです。

(1) コース配属と研究室配属

コース配属は主専攻を決定するもので履修登録と関連します。研究室配属は卒業研究テーマを決定するもので履修登録とは関連していません。研究室選択は主専攻コースの研究室（卒業研究テーマ）を優先することが望ましいですが、所属学科や教養教育センターの他研究室を選択することも可能です。

(2) 主専攻

選択したコースに配置される授業科目を「2年・3年の合計で23単位以上」修得することが必須要件となります。主専攻コースの配属は2年3Qからですが、基礎インターンシップ終了時に希望調査を行い、その後、学科内選考で決定します。

(3) 副専攻

選択したコースに置かれた授業科目を「2年・3年の合計で10単位以上」修得することが必須要件となります。4年次2Q終了時点で条件を満たした場合は、学生の判断で認定申請手続きが必要となります。なお、副専攻でのコース配属はありません。

(4) 主専攻・副専攻の証明書等への表記について

主専攻は、卒業証明書・成績証明書に記載されます。副専攻は、個別認定された場合に卒業証明書・成績証明書に追記されます。また、主専攻・副専攻は、卒業研究および制作による総合評価（ディプロマ・サプリメント）にも表記されます。

(5) 卒業研究および制作（必修）

① 着手要件

4年次在籍者に限ります。但し、早期卒業が見込まれる場合にあつては、その限りではありません。

② 実施方法等

「卒業研究および制作」の受講にあたって、研究等の進め方や提出物などの詳細は、各研究室の指導教員の指導に従ってください。

③ 成績判定

各学科の定める基準に基づいて、合否が判定されます。

8. 試験

(1) 試験の受験資格

試験を受験するためには、次の条件を全て満たしている必要があります。

受験資格	
①	受験する授業科目を履修登録していること。
②	受験科目の開講クォータの授業料を納入していること。

※ 授業科目によっては、授業への出席状況により受験資格を得られない場合があります。授業への出席と成績評価との関連性については、後述の「9. 成績評価及び単位の認定」を参照してください。

(2) 試験の方法

試験の方法は、授業科目により異なります。詳細は、授業担当教員からの説明や web シラバス等を参照してください。

試験方法の例は、次のとおりです。

試験方法の例	
例 1	筆記試験
例 2	実技試験、実験成果
例 3	授業態度、レポート、課題・作品、報告書等
例 4	研修態度、日報、研修報告、研修成果等
例 5	論文、作品、計画、実験報告、発表等

(3) 試験の実施時間等

試験を授業の中で随時行う場合、開講クォータの最終授業時間内に行う場合、開講クォータの授業とは別の日程（補講・補習週を含む）に試験を行う場合は、事前に授業担当教員から指示や掲示をします。

試験の実施時間や教室等は、通常の間割とは異なることがありますので注意してください。

(4) 入退室・遅刻

試験室への入退室に関する注意事項は、次のとおりです。

試験室への入退室に関する注意事項	
① 試験開始後 30分以上経過	入室できません。 (受験できません。)
② 試験開始後 40分まで	退室できません。 (40分以降は、退室可能。)
③ 急病など	試験監督の許可を得た後に指示に従い退室することができます。

※ 途中退室した場合は、再入室できません。

※ 途中退出する場合は、退室前に試験問題及び答案用紙を提出しなければなりません。

(5) 受験上の心得

受験者は、試験に際して次の事項を必ず守ってください。守れない場合は、受験を許可しません。また、不正行為とみなすことがあります。

受験上の心得
①学生証を机の上に置き、提示すること。
②答案用紙は、解答の有無にかかわらず、提出すること。
③筆記用具及び許可された物品以外は、机の上に置かないこと。
④試験時間中に物品等の貸し借りをしないこと。
⑤不正行為もしくは不正行為を疑われることをしないこと。
⑥試験監督者の指示に従うこと。

※ 上記のほか、次の事項を守ってください。

- ・携帯電話等は電源を切り、鞆の中などにしまってください。
- ・鞆は机の下に置くなど、指示された場所に置いてください。

※ 学生証は、教務係窓口にて手続きをすれば再発行できますが、即日発行はできません。再発行には3週間程度かかりますので、再発行の必要がある場合は、試験受験に間に合うよう速やかに手続きを行ってください。

(6) 不正行為の取扱い

試験において不正行為を行った場合は、懲戒処分となります。対象となる試験は、筆記試験に限らず、実技試験、レポート、課題・作品、報告書、論文など、成績評価に関わる全ての試験が含まれます。

懲戒は、不正行為の軽重により、訓告、停学、退学の処分があります。処分内容は、次のとおりです。

不正行為に対する懲戒処分	
訓告	・不正行為を行った科目の成績が無効となります。
停学	・不正行為を行った科目が開講されたクォータで履修登録した全ての科目の成績が無効となります。 ・停学中は、授業を履修することはできません。
退学	・不正行為を行った科目が開講されたクォータで履修登録した全ての科目の成績が無効となります。 ・退学（再入学はできません）

※ 停学期間は、修業年限には含みませんが、在学年限には含めます。卒業には、停学期間を除いて4年以上の在学が必要となるため、通常の学生と同じ4年間で卒業することはできません。

9. 成績評価及び単位の認定

授業はすべて出席することが当たり前であり、何回まで休んでよいというものではありません。病気や忌引きであっても、欠席すれば学修に支障をきたすこととなりますので、欠席した授業の内容の把握や質問など、自ら学ぶことが必要となります。そのうえで、本学では一つの科目が1クォータで7回の授業構成となっているため、1回の授業の重みは大きく、6回以上の出席が授業についていくために必要となってきます。また、きちんと授業に参加した前提で、試験で合格点以上の評価に到達した場合に単位を修得することができます。試験方法は授業科目によって異なりますので留意してください。

なお、授業出席は成績評価を受けるための前提条件であり、授業に全て出席したからといって、合格点となる基準到達点以上の評点に満たなければ単位を修得することはできません。

(1) 成績評価の区分

成績評価は、到達目標に示される「目標到達点」「基準到達点」により行われ、目標到達点、基準到達点と成績評価の関係は次のとおりです。評価が「C：合格」以上の場合に所定の単位を修得できます。

目標到達点：授業で扱うすべての内容(授業のねらい)を示す目標

基準到達点：授業を履修する学生が最低限、身につける内容を示す目標

評価	評点	内容	区分
S	100～90点	目標到達点を越えている。	合格
A	89～80点	目標到達点を達成している。	
B	79～70点	目標到達点に挑戦している段階である。	
C	69～60点	基準到達点を達成している。	
N	なし※	他大学や他機関等で修得した成績を認定したもの。	
E	59点以下	基準到達点を達成できていない。	不合格

※ 科目認定には、所定の手続きが必要です。教務係窓口にお問い合わせください。

(2) 成績の取扱い

集中講義科目、通年科目、インターンシップ、卒業研究および制作を除き、通常の授業科目はクォータごとに成績を評価します。

成績評価の結果は、クォータごとに通知しますので、各自成績を確認してください。

(3) 成績開示

成績通知書は、クォータごとに担任教員からホームルームで配布するとともに、各自のポータルシステムから成績を閲覧できます。成績通知書の配布及びポータルシステムへの公開日は、掲示でお知らせしますので確認してください。また、年度ごとに、保証人宛てに成績通知書を郵送します。

(4) 成績質問申請

成績評価の内容について質疑のある場合は、指定された期間（成績質問申請期間）内に、所定の用紙（成績に関する質問申請書）に必要な事項を記入し、教務係窓口に提出してください。

成績質問申請期間に質問申請できる対象は、当該クォータの成績に限られます。過去の成績に関する質問は受け付けません。成績質問申請期間を過ぎた場合は、成績に関する質問は受け付けません。

※ 質問申請する際には、次の事項を念頭に入れてください。

- ① 授業への出席は、成績の評価を受けるための前提条件であり、授業に全て出席したからといって、合格点以上の評点に満たなければ単位を修得することはできません。
- ② 課題、レポートなどの提出物は、提出すればよい訳ではなく、期限内に提出されたものに限り成績評価の対象とし、その内容を評価するものです。
- ③ 質問申請は、成績評価結果への疑問を解決することが趣旨です。質問申請したからといって、成績が変更になるとは限りません。

(5) GPA制度について

GPA(Grade Point Average)とは成績評価(S、A、B、C、E)にそれぞれGP(Grade Point)を定め、それに各単位数を掛けた値の合計を履修登録単位合計で割った平均値であり、総合的な成績指標です。したがって、不合格科目が多いとGPAの値が低くなります。

GPAは、席次の決定のほか学内での選考(早期卒業、奨学生、コース配属、就職の推薦等)に使用され、成績証明書には通算GPAが表示されます。

各成績評価に対するGP(Grade Point)は次のとおりです。但し、単位認定した科目「N」はGPAの算出には含まれません。

○成績評価GP

成績評価		GP
合格	S	4
	A	3
	B	2
	C	1
	N	—
不合格	E	0

(6) GPAの算出方法

各年度のGPA

$$= \frac{\text{「当該年度（当該クォータまで）に履修した科目のGP} \times \text{単位」の合計}}{\text{当該年度（当該クォータまで）に履修登録した単位数の合計}}$$

通算GPA

$$= \frac{\text{「今まで履修した科目のGP} \times \text{単位」の合計}}{\text{今までに履修登録した単位数の合計}}$$

※ 成績通知書には、「各年度のGPA」、「通算GPA」の2種類が表示されます。

※ 成績証明書には、通算GPAが表示されます。

(7) 成績の席次

成績に基づき、各学生の席次を確定します。席次を知りたい場合は、教務係窓口で学生証を提示してください。なお、申請は、学生本人に限ります。

※ 席次の算出方法は、通算GPAにより各学科各学年の順位付けを行います。

(8) 学修指導

各クォータのGPAや修得単位数が一定基準を満たしていない場合は、担任教員による面談を行います。また、年間GPAが0.5未満の場合は学修指導を行います。指導後も学修への取り組みが改善されない場合は、退学勧告を受ける可能性もあります。したがって、履修登録した科目で受講しない場合は履修登録・確認・変更期間や履修取消期間を活用して、削除または取消を行ってください。

(9) 不合格になった授業

成績評価の結果、不合格（E）となり単位を修得できなかった授業科目の内、必修科目については、原則補充授業を履修して当該年度内に単位を修得しなければなりません。選択必修科目と選択科目については、再履修するかどうかは各自の判断に委ねられます。

再履修して合格した場合であっても、GPAの計算には不合格のときの履修登録単位も算出式の分母に含まれます。

(10) 追試

不合格となった学生を対象に翌学期以降に受講学生の単位修得を支援するため、補充授業を実施し、単位認定のための追試験を実施することがあります。

(11) 他大学等で履修した単位の認定

他大学等において修得した単位がある場合、その科目と本学の授業科目を対応させるなどして、単位の認定を行うことがあります。

単位認定を希望する学生は、所定の用紙（既修得単位認定願または技能試験合格者単位認定願）に必要書類を添付して教務係窓口に提出してください。

単位認定の主な対象は、次のとおりです。

主な単位認定の対象	
①	他大学（外国の大学を含む）、短大での修得単位
②	高等専門学校、専修学校（専門課程）等での修得単位
③	文部科学省認定の技能資格の合格（英検等）
④	③に準じる技能資格（検定試験）の合格
⑤	本学の科目等履修生として修得した単位
⑥	本学の高大連携制度に基づき入学前に本学で履修した単位

※ 英語科目の単位認定基準は次のとおりです。

授業科目	単位	英検	TOEIC	TOEFL iBT	IEFLTS	CEFR(レベル)
英語Ⅰ(教養共通)	2	2級	550	61-68	5	B1
英語Ⅱ(教養共通)	2		600	69-75	5.5	B2
英語Ⅲ(教養共通)	2	準1級	700	76-		

授業科目	単位	英検	TOEIC	TOEFL iBT	IEFLTS	CEFR(レベル)
ビジネスコミュニケーションⅠ	1	2級	500	52-68	4.5	B1
ビジネスコミュニケーションⅡ	1		550	61-68	5	B2

(12) 放送大学で履修した単位の認定

放送大学で修得した単位は、各学科が指定する科目に限り 10 単位を限度として、本学で修得した単位と同等のものとして認定され、卒業に必要な単位数に含めることができます。但し、これらの放送大学の科目は、本学の授業科目に代えることはできません。

10. 進級要件・卒業要件

卒業のためには、編入学生等を除き、通常4年以上在学して4年間の教育課程（修業年限）を修了し、かつ、必要な単位を修得しなければなりません。

卒業が認められると、学士（技能工芸学）の学位が授与されます。

(1) 進級要件

進級するためには、以下の①～③の条件を満たすことが必要です。

- ① 当該年度に置かれている必修科目の単位修得
- ② 年度末の修得単位数

区 分	1年から2年	2年から3年	3年から4年
単位数	25 単位	60 単位	100 単位

- ③ 年度末の GPA が 1.0 以上

進級要件は、進級するための最低限の条件です。条件を満たさなかった場合は留年となります。進級要件・卒業要件を見越して単位を修得する必要があります。

(2) 卒業要件

各学科が指定する必修科目（「卒業研究および制作」を含む）のすべての単位、及び選択必修科目の中から指定する単位数を含め、合計 124 単位以上の修得が必要です。

情報メカトロニクス学科卒業要件

区 分		単位数
教養科目	必修科目	3.5 単位
	選択必修科目	8.5 単位以上
基礎インターンシップ（必修）		8 単位
専門共通科目	必修科目	17 単位
専門科目	主専攻科目	23 単位以上
卒業研究および制作（必修）		12 単位
その他選択科目		52 単位以上
合 計		124 単位以上

建設学科卒業要件

区 分		単位数
教養科目	必修科目	3.5 単位
	選択必修科目	8.5 単位以上
基礎インターンシップ（必修）		8 単位
専門共通科目	必修科目	18 単位
専門科目	必修科目	1.5 単位
	主専攻科目	23 単位以上
卒業研究および制作（必修）		12 単位
その他選択科目		49.5 単位以上
合 計		124 単位以上

(3) 卒業見込証明書

卒業見込証明書は、4年次の4月末日頃から発行します。発行開始日の詳細等については、掲示を行いますので確認してください。

※ 授業料等未納者については、証明書の発行はできません。

(4) 卒業の時期

4年次終了時に卒業要件を満たすことができず留年した学生は、4年間の修業年限経過以降、「卒業研究および制作」を含むすべての卒業要件を満了したクォータ末に卒業となり、卒業要件を満たしたクォータの末日付けの卒業となります。

(5) 早期卒業

通常、卒業には4年以上の在学が必要ですが、次の事項を全て満たした学生は、3年次4クォータ終了時以降に早期卒業できる可能性があります。

- ① 学則に定める教育課程を履修し、卒業に必要な単位数以上を修得していること。
- ② 本学大学に3年以上在学していること。
- ③ 在学期間の通算GPAが3.5以上であること。

※ 早期卒業に伴う申請要件などの詳細は、教務係窓口で確認してください。

(6) 仮進級要件

留年した学生が次の要件を満たす場合、届出を提出し学内会議の審議を経て、1学年上級の配当科目の履修を認める「仮進級」制度があります。

- ① 当該学年での必修科目の過半数を修得していること。
- ② 留年時の修得単位数が進級要件単位数以上であること。

区 分	1年終了時	2年終了時	3年終了時
単位数	25 単位	60 単位	100 単位

B. カリキュラム

(情報メカトロニクス学科 2022年度入学者適用)

I. カリキュラム (教育課程)

II. 授業科目

※授業に関しては毎年、一部変更が生じることがあるため、WEBシラバスにて常に最新情報を入手のうえ、履修計画を作成してください。

I. カリキュラム (教育課程)

I-1. ディプロマ・ポリシー	31
I-2. カリキュラム・ポリシー	32
I-3. 応用課程のコース	33

I-1. ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、情報メカトロニクス学科が定めた以下の能力を身につけ、卒業要件として定める専門的な学修を体得し、その基準を満たした者に学位を授与する。

- ① 製造関連分野（AI・情報システム、ロボットシステム、機械デザイン、生産システム）に関わる基礎的学力、専門的知識、技術技能の他、実践的な場面で創意工夫ができる現場力を有すること。
- ② 学修課程のなかでチームが一丸となる協調性を持ち、また、リーダーとしての課題設定と解決のためのマネジメント力、困難を乗り越えられる耐力と胆力を有すること。
- ③ 多様化する製造関連業界の一員となるため、異文化などの受容と尊重が行え、更に進化する科学技術や社会経済のグローバル化にも対応できる能力を有すること。
- ④ 実社会が要求する専門的知識と技術技能に加え、社会性や倫理性を持って価値観の違う相手との双方向コミュニケーションが図れる能力を有すること。

I-2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の内容・方法の方針）

本学の「基本理念」と「ディプロマ・ポリシー」に掲げる、高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、情報メカトロニクス学科では以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- ① 入学から卒業までの教育課程を三段階に分け、4 学期制（quarter 制度）の下で1年1学期から2年2学期までを「基礎課程」、2年3学期から3年4学期までを「応用課程」、そして4年1学期から4年4学期までを「専門研究課程」として、段階的に高度な実践力が身に付く科目配当とする。
- ② 基礎課程では、製造関連分野（AI・情報システム、ロボットシステム、機械デザイン、生産システム）に関わる基礎的な専門知識を、講義と実験・実習を通して幅広く学び、それを踏まえて基礎課程を総括する長期の基礎インターンシップで実務を体験し、学修者が目標とする将来像を明らかとする。
- ③ 応用課程では、学修者が到達目標に掲げる将来像をより確かなものとするため、4 コースの中から主専攻を定めてより高度な専門知識を、講義と実験・実習を通して幅広く学ぶものとするが、その他のコース科目についても履修することは可能で、創意工夫が行える総合的な実践力を身に付ける。
- ④ 専門研究課程では、所属する研究室教員の指導を受け、情報メカトロニクス学科教育課程の集大成として、卒業研究という課題設定に対して主体性と協調性を持ち、1年間を通して実施した専門的研究成果を明らかとし、即戦力として社会に貢献できる技術・技能を確立させる。
- ⑤ 上掲の基礎課程から専門研究課程の段階を通じ、テクノロジスト育成に必要不可欠なる教養科目を配当する。基礎課程は初年次教育として、メディアリテラシーやデータサイエンスまた外国語も含め、アカデミックスキルを中心として学ぶ。応用課程では、本学設立に寄与した梅原猛とピーター・ドラッカーの思想的営為を理解すべく人文・社会科学さらに自然科学を学び、加えて、卒業後を見据え社会人としての社会性・倫理性を身に付ける。

I-3. 応用課程のコース

応用課程（2年次3クォータ～3年次4クォータ）では、各専門分野の技能技術および専門知識の修得を目的とした4つのコースを設置しています。各コースの履修方法等については、事前にガイダンスまたは掲示を行います。

応用課程に置かれるコースは、AI・情報システムコース（AI）、ロボットシステムコース（RS）、機械デザインコース（MD）、生産システムコース（PS）の4コースです。

配当される各授業科目の内容等については、WEBシラバスを参照してください。

各コースのエデュケーショナル・ポリシーは以下の通りです。

1) AI・情報システムコース（AI）

① 目標とする学修成果

現代社会は、AI、IoT、データサイエンスの発展により、種々の現象を検知・解析・推測し、物ごとを効率的に動かす技術が進歩しています。これに伴い、自動運転や介護補助・遠隔医療など、人の生活をより一層便利にするシステムや工業・農業・建設機械など、広範囲でシステムの自動化が進むでしょう。このため、当コースでは各種機械の最新の自動化技術を理解するため、AIやデータサイエンス、IoTを相乗したICTなどを実践的な学修方法で修得し、AI・情報システムのスペシャリストとして、AI・IoT・データサイエンスを駆使した、これからの多様なデジタル社会を先導できるテクノロジストを育成していきます。

② 授業科目編成

基礎課程ではICT基礎・応用により、情報をデジタルデータとして扱う方法とソフトウェア開発技術の基礎的知識を身に付けます。また、機械や電気のものづくり技術と、すぐれたデザインを創出する技法についても修得します。基礎インターンシップ後の応用課程からは、人の身体・感覚・心などの仕組みを学ぶとともに、センサやマイクロコンピュータ・通信など、ヒューマンインタフェースの要素技術を修得します。さらに、より高度なインタフェース構築のために、CGやAI技術も学んで理解を深めるようにします。

このように、総合的にAI・情報システムが学べる授業科目編成となります。

2) ロボットシステムコース（RS）

① 目標とする学修成果

ロボット開発はグローバルな視点から見ても、ハードウェア関連技術とソフトウェア関連技術の両輪となる専門的知識を備え、常に点検評価と創意工夫によってさらなる向上意欲を備えた現場力重視の技術者が求められています。このため、当コースではハードウェア関連技術となる3D設計・自動制御技術・ロボット技術・センシング技術・オペレーション技術などに加え、ソフトウェア関連技術としてロボット言語・組込みシステム、C/Pythonプログラミングなどを実践的な学修方法で修得し、ロボットシステム分野のスペシャリストとして、未来の豊かな人間社会を支える、ロボットや自動化システムの設計・開発などを担うことができるテクノロジストを育成していきます。

② 授業科目編成

基礎課程ではICT応用および演習を通じて、プログラム作成の基礎を修得します。さらにメカトロニクス技術の要素技術修得をめざし、機械システム・センサ技術・メカトロニクスなどを学び、ロボットシステムの基礎を理解します。基礎インターンシップ後の応用課程からは、

ロボット開発者または自動化システム開発者をめざして、自動制御、組込みシステム、ロボット技術、知能化技術なども学修し、各種の技術を統合できる開発力を身に付けます。

このように、総合的にロボットシステムが学べる授業科目編成となります。

3) 機械デザインコース (MD)

① 目標とする学修成果

人間の生活をより豊かなものとするため、これからのものづくりには「もの」が実現できることだけでなく、それを使う人や環境との調和の視点を大切にしながら様々な機械を設計・製作することが求められています。このため、当コースでは機械要素・機械力学・材料工学・加工プロセスなど機械の設計・製作に必要な知識や技術を実践的な学修方法で修得し、機械デザイン分野のスペシャリストとして、多様な機械使用の環境のなかで現代社会や人々が求めるニーズを逸早く理解し、それを様々なアイデアによって形にできるテクノロジストを育成していきます。

② 授業科目編成

基礎課程では興味・得意分野を見つけながら、機械製図、機械設計製図などを通じて機械設計の基礎を学びます。さらに3次元CAD、機械設計スキルを修得します。基礎インターンシップ後の応用課程からは、高度な機械製作のための専門的課題に取り組み、また、CADやCAMを用いた製図技術も学び、洗練されたデザイン力を身に付けます。

このように、総合的に機械デザインが学べる授業科目編成となります。

4) 生産システムコース (PS)

① 目標とする学修成果

安全性と高効率を備えた生産技術は重要であり、生産工程設計・製造ライン設計・品質管理・生産管理などの手法を理解しておかなければなりません。また、効率的なものづくりとそのための環境整備と改善手法は企業にとって重要であり、その能力が必要となります。また実際の製造現場で使用される最新鋭の機器や測定機器の取り扱いを理解し、活用できなくてはなりません。当コースでは機械加工技術と生産工程を提案する技術と共に、現場管理・マネジメント力を修得し、生産システムのスペシャリストとして、生産現場の最前線でリーダーを担えるテクノロジストを育成していきます。

② 授業科目編成

基礎課程では基本的な機械加工技術をベースに、生産工程設計・製造ライン設計・品質管理・生産管理などの基礎を学びます。また、様々な基礎的学習を通して、機械工作・機械加工および測定スキルも身に付け、伝統的な技法についても学びます。基礎インターンシップ後の応用課程からは、現代のものづくりで使用される最新鋭の機器を用いて、第一線の現場で即戦力となりうる技術を修得します。さらには実践的なトヨタ生産方式をはじめとするものづくりのマネジメントについても、理解を深めるようにします。

このように、総合的に生産システムが学べる授業科目編成となります。

Ⅱ. 授業科目

Ⅱ-1. 授業科目配当表（2022年度入学生）	36
Ⅱ-2. 授業科目一覧	38
Ⅱ-3. カリキュラムツリー	42
Ⅱ-4. カリキュラムマップ	44

II-1. 授業科目配当表

開講される学期が変更される場合がありますので、各年度の時間割で確認してください。

学年	1年1Q	1年2Q	1年3Q	1年4Q	2年1Q	2年2Q	2年3Q	2年4Q		
課程	基礎課程									
教養科目	安全衛生 1	ものづくり・ひとづくり総合講義A 2	英語Ⅰ 2	英語Ⅱ 2	英語Ⅲ 2		SDGs-A 1	SDGs-B 1		
	ICT基礎および実習Ⅰ 1.5	創作実習A(夏期) 1 創作実習B(夏期) 1	スポーツコミュニケーション 1	デザイン思考 1	救命衛生法 1					
			ICT基礎および実習Ⅱ 1.5							
			社会人基礎力育成講座Ⅰ 1		社会人基礎力育成講座Ⅱ 1		社会人基礎力育成講座Ⅱ 1			
専門共通科目 (講義系)	フレッシュマンゼミ 2						プロジェクト実習 2			
	基礎数学Ⅰ 1	基礎数学Ⅱ 1	基礎数学Ⅲ 1	基礎数学Ⅳ 1	工業数学 1		熱・流体力学の基礎 1	熱力学 1		
	工学基礎および実験 1.5	基礎物理Ⅰ 1	基礎物理Ⅱ 1	基礎物理Ⅲ 1	基礎物理Ⅳ 1		生産管理 1	流体力学 1		
	機械スケッチ演習 1	基礎物理実験 1	基礎化学 1	基礎材料学 1	機械システムとメカニズム 1		材料力学Ⅱ 1	品質管理 1		
	測定基礎実習 0.5	ものづくり数理工学 1	機械工学概論 1	電気工学概論 1	ものづくり実務概論 1		工業材料B 1	ICT応用および実習 1.5		
	ビジネスコミュニケーションⅠ 1	ビジネスコミュニケーションⅡ 1	ものづくり技術概論 1	プロダクトデザイン 1	工業材料A 1		基礎数値解析 1	材料強度 1		
			設計技法 1					統計的データ解析 1		
コース別専門科目 (主に実技系)	データサイエンスおよび実習 1.5		Python基礎および実習 1.5	Javascript基礎および実習 1.5	データマイニング基礎および実習 1.5	基礎 イン ター ン シ ップ	(AI・情報システムコース科目)	ネットワークの仕組 1	半導体 1	
							Webデザインおよび実習 1.5	CGプログラミングおよび演習 1.5		
								デジタル回路および実習 1.5	デジタル回路および実習 1.5	
		ロボット機構基礎および実習 1.5	デジタルファブリケーションおよび実習 1.5	数値解析基礎および演習 1.5	基礎電気工学および実験 1.5			電気電子技術 1	電気電子回路および実験 1.5	制御技術基礎および実習 1.5
									制御技術および実習 1.5	
							(機械デザインコース科目)	実践機械製図および製作Ⅰ 1.5	2次元CAD実習Ⅱ 1	
	基礎機械製図および実習 1.5	2次元CADおよび実習Ⅰ 1.5	3次元CADおよび実習Ⅰ 1.5	材料力学Ⅰおよび実験 1.5		機械力学および実験 1.5	電気電子回路および実習Ⅰ 1.5	製造基礎実習 1	制御技術および実習 1.5	
								実践機械製図および製Ⅱ 1.5		
	手仕上げ加工および実習 1.5	機械加工基礎および実習 1.5	NCプログラム基礎および実習 1.5	溶接基礎・板金基礎および実習 1.5			(生産システムコース科目)	鍛造基礎実習 1	材料評価および実験 1.5	
								3次元CAD実習Ⅱ 1	変形加工および実習 1.5	
									自動車生産技術 1	

	3年1Q	3年2Q	3年3Q	3年4Q	4年1Q	4年2Q	4年3Q	4年4Q
応用課程					専門研究課程			
ものづくり・ひとつくり 総合講義B	1 言語と文化	1 日本語と文化	1 日本文化論	1 文明と社会	1 梅原猛で学ぶ学問と世界	1 Druckerで学ぶマネジメント		
	社会人基礎力育成講座Ⅲ				1	社会人基礎力育成講座Ⅳ		
			創造プロジェクト		2	Lゼミ		
音響工学	1 エネルギー工学	1 伝熱工学	1 生体工学	1 産学連携計画	1	卒業研究および制作（着手条件100単位以上）		
産業構造論	1 人間工学	1 感性工学	1	1	1			
信頼性工学	1 テクニカルコミュニケーション	1 生命科学概論	1	1	1			
ユーザ工学	1 マイクロデバイス	1 実践に役立つ知財活用戦略	1	1	1			
デジタルメディア デザインおよび実習	1.5 知能化技術	1 組み込みシステム基礎 および実習	1.5 組み込みシステム応用 および実習	1.5				
画像処理および実習	1.5 Javaプログラミングお よび演習	2 インタフェース技術 および実習	1.5 IoT応用技術および実習	1.5				
C言語および実習	1.5 メカトロニクスおよび 実験 センサ技術および 実験	1.5 IoT技術および実験	1.5 AI技術および演習	2				
ロボット技術 および実験Ⅰ	1.5 ロボット技術および実 験Ⅱ	1.5 ロボット技術および実験Ⅲ	1.5 ロボット技術および実験Ⅳ	1.5				
センサ技術および実験	1.5 メカトロニクスおよ び実験	1.5 組み込みシステム基礎 および実習	1.5 組み込みシステム応用 および実習	1.5				
アクチュエータおよび実 験	1.5 Javaプログラミングお よび演習	2 IoT技術および実験	1.5 画像処理および実習	1.5				
C言語および実習	1.5 自動制御および実験	1.5						
強度設計および演習	2 自動化技術および実験	1.5 CAE基礎および演習	2 CAE応用および演習	2				
センサ技術および実験	1.5 機械要素応用 C A D設計製図 および実習	1 CAD/CAMおよび実習 1.5 生産機械 1.5 工業デザインプロセス および実習	1.5 3次元CADおよびDTPD演習	2				
精密計測および実験	1.5 NC機械加工実習	1 CAD/CAMおよび実習	1.5 超精密加工および実習	1.5				
鋳造技術および実習	1.5 鍛造加工および実習	1.5 研削加工および実習	1.5 生産システム学および演習	2				
機械工作法 A	1 機械工作法B	1 トヨタ生産方式実践演習	1					
機械工作実験	1 樹脂成形加工および実 習	1.5						
					4 専門インターンシップⅠ			
					8 専門インターンシップⅡ			

注 必修科目

II-2. 授業科目一覧

開講される学期が変更される場合がありますので、各年度の時間割で確認してください。

授業科目名		配当年次	時間数 (コマ数)	単位数	
				必修	選択必修
教養科目	◎ 安全衛生	1	1	1	
	◎ ICT基礎および実習 I	1	2	1.5	
	社会人基礎力育成講座 I	1	1		1
	ものづくり・ひとつくり総合講義A	1	2		2
	創作実習A(夏期)	1	2		1
	創作実習B(夏期)	1	2		1
	英語 I	1	2		2
	スポーツコミュニケーション	1	1		1
	ICT基礎および実習 II	1	2		1.5
	英語 II	1	2		2
	デザイン思考	1	1		1
	英語 III	2	2		2
	◎ 社会人基礎力育成講座 II	2	1	1	
	救命衛生法	2	1		1
	SDGs-A	2	1		1
	SDGs-B	2	1		1
	ものづくり・ひとつくり総合講義B	3	1		1
	社会人基礎力育成講座 III	3	1		1
	言語と文化	3	1		1
	日本文化論	3	1		1
	文明と社会	3	1		1
	梅原猛で学ぶ学問と世界	4	1		1
	社会人基礎力育成講座 IV	4	1		1
Druckerで学ぶマネジメント	4	1		1	

◎ 必修科目

授業科目名		配当年次	時間数 (コマ数)	単位数	
				必修	選択
専門 共通 科目	◎ フレッシュマンゼミ	1	2	2	
	基礎数学Ⅰ	1	1		1
	◎ 工学基礎および実験	1	2	1.5	
	機械スケッチ演習	1	1		1
	◎ 測定基礎実習	1	1	0.5	
	ビジネスコミュニケーションⅠ	1	1		1
	基礎数学Ⅱ	1	1		1
	基礎物理Ⅰ	1	1		1
	基礎物理実験	1	2		1
	ものづくり数理工学	1	1		1
	ビジネスコミュニケーションⅡ	1	1		1
	基礎数学Ⅲ	1	1		1
	基礎物理Ⅱ	1	1		1
	基礎化学	1	1		1
	機械工学概論	1	1		1
	◎ ものづくり技術概論	1	1	1	
	設計技法	1	1		1
	基礎数学Ⅳ	1	1		1
	基礎物理Ⅲ	1	1		1
	基礎材料学	1	1		1
	電気工学概論	1	1		1
	プロダクトデザイン	1	1		1
	工業数学	2	1		1
	基礎物理Ⅳ	2	1		1
	機械システムとメカニズム	2	1		1
	ものづくり実務概論	2	1		1
	工業材料A	2	1		1
	◎ プロジェクト実習	2	2	2	
	熱・流体力学の基礎	2	1		1
	生産管理	2	1		1
	材料力学Ⅱ	2	1		1
	工業材料B	2	1		1
	基礎数値解析	2	1		1
	熱力学	2	1		1
	流体力学	2	1		1
	品質管理	2	1		1
	ICT応用および実習	2	2		1.5
	材料強度	2	1		1
	統計的データ解析	2	1		1
	音響工学	3	1		1
	産業構造論	3	1		1
	信頼性工学	3	1		1
	ユーザ工学	3	1		1
	エネルギー工学	3	1		1
	人間工学	3	1		1
	テクニカルコミュニケーション	3	1		1
	マイクロデバイス	3	1		1
◎ 創造プロジェクト	3	2	2		
伝熱工学	3	1		1	
感性工学	3	1		1	
生命科学概論	3	1		1	
実践に役立つ知財活用戦略	3	1		1	
生体工学	3	1		1	
製品開発計画	3	1		1	
◎ Lゼミ	4	2		8	

授業科目名		配当年次	時間数 (コマ数)	単位数		コース			
				必修	選択	AI	RS	MD	PS
専門科目	データサイエンスおよび実習	1	2		1.5	△	△		
	手仕上げ加工および実習	1	2		1.5			△	△
	機械加工基礎および実習	1	2		1.5			△	△
	NCプログラム基礎および実習	1	2		1.5			△	△
	溶接基礎・板金基礎および実習	1	2		1.5			△	△
	ロボット機構基礎および実習	1	2		1.5		△		
	基礎機械製図および実習	1	2		1.5			△	△
	Python基礎および実習	1	2		1.5	△	△		
	デジタルファブリケーションおよび実習	1	2		1.5		△	△	
	2次元CADおよび実習 I	1	2		1.5			△	△
	Javascript基礎および実習	1	2		1.5	△	△		
	数値解析基礎および演習	1	2		2	△	△		
	3次元CADおよび実習 I	1	2		1.5			△	△
	データマイニング基礎および実習	2	2		1.5	△	△		
	基礎電気工学および実験	2	2		1.5	△	△	△	
	材料力学 I および実験	2	2		1.5			△	△
	ネットワークの仕組	2	1		1	○			
	Webデザインおよび実習	2	2		1.5	○			
	デジタル回路および実習	2	2		1.5	○	○		
	電気電子技術	2	1		1		○		
	実践機械製図および製作 I	2	2		1.5			○	
	機械力学および実験	2	2		1.5			○	
	鋳造基礎実習	2	2		1			○	○
	3次元CAD実習 II	2	2		1				○
	半導体	2	1		1	○			
	CGプログラミングおよび実習	2	2		1.5	○			
	アナログ回路および実習	2	2		1.5		○		
	電気電子回路および実験	2	2		1.5		○	○	
	制御設計基礎および実習	2	2		1.5		○		
	制御技術および実験	2	2		1.5		○	○	
	2次元CAD実習 II	2	2		1			○	
	実践機械製図および製作 II	2	2		1.5			○	
	材料評価および実験	2	2		1.5				○
	変形加工および実習	2	2		1.5				○
自動車生産技術	2	1		1				○	
◎ 基礎インターンシップ	2	40日		8		○	○	○	

授業科目名		配当年次	時間数 (コマ数)	単位数		コース			
				必修	選択	AI	RS	MD	PS
専門科目	デジタルメディアデザインおよび実習	3	2		1.5	○			
	画像処理および実習	3	2		1.5	○	○		
	C言語および実習	3	2		1.5	○	○		
	ロボット技術および実験 I	3	2		1.5		○		
	センサ技術および実験	3	2		1.5	○	○	○	
	アクチュエータおよび実験	3	2		1.5		○		
	強度設計および演習	3	2		2			○	
	精密計測および実験	3	2		1.5				○
	鋳造技術および実習	3	2		1.5				○
	機械工作法A	3	1		1				○
	機械工作実験	3	2		1				○
	知能化技術	3	1		1	○			
	Javaプログラミングおよび演習	3	2		2	○	○		
	メカトロニクスおよび実験	3	2		1.5	○	○		
	ロボット技術および実験 II	3	2		1.5		○		
	自動制御および実験	3	2		1.5		○		
	自動化技術および実験	3	2		1.5			○	
	機械要素応用	3	1		1			○	
	CAD設計製図および実習	3	2		1.5			○	
	NC機械加工実習	3	2		1				○
	鍛造加工および実習	3	2		1.5				○
	機械工作法B	3	1		1				○
	樹脂成形加工および実習	3	2		1.5				○
	組込みシステム基礎および実習	3	2		1.5	○	○		
	インタフェース技術および実習	3	2		1.5	○			
	IoT技術および実験	3	2		1.5	○	○		
	ロボット技術および実験 III	3	2		1.5		○		
	CAE基礎および演習	3	2		2			○	
	CAD/CAMおよび実習	3	2		1.5			○	○
	生産機械	3	1		1			○	
	工業デザインプロセスおよび実習	3	2		1.5			○	
	研削加工および実習	3	2		1.5				○
	トヨタ生産方式実践演習	3	1		1				○
	組込みシステム応用および実習	3	2		1.5	○	○		
	IoT応用技術および実習	3	2		1.5	○			
	AI技術および演習	3	2		2	○			
	ロボット技術および実験 IV	3	2		1.5		○		
	CAE応用および演習	3	2		2			○	
	3次元CADおよびDTPD演習	3	2		2			○	
	超精密加工および実習	3	2		1.5				○
生産システム学および演習	3	2		2				○	
◎ 卒業研究および制作	4	4Q分	12		○	○	○	○	
◎ 専門インターンシップ I ※	4	20日		4	○	○	○	○	
◎ 専門インターンシップ II ※	4	40日		8	○	○	○	○	

※ 専門インターンシップは I, II のいずれかを履修

3 学年第 1 Q	3 学年第 2 Q	3 学年第 3 Q	3 学年第 4 Q	4 学年第 1 Q	4 学年第 2 Q	4 学年第 3 Q	4 学年第 4 Q	
		創造プロジェクト(2)		卒業研究および制作(12)				:必修科目
				Lゼミ(8)				
				専門インターンシップ I (4) 専門インターンシップ II (8)				
音響工学(1)	人間工学(1)	生命科学概論(1) 感性工学(1)	生体工学(1)					AI・情報システムコース
		IoT技術および実験(1.5) IoT技術および実験(1.5)	IoT応用技術および実習(1.5)					
画像処理および実習(1.5) デジタルメディアデザインおよび実習(1.5)			画像処理および実習(1.5)					
C言語および実習(1.5) C言語および実習(1.5)	Javaプログラミングおよび演習(2) Javaプログラミングおよび演習(2)							
	メカトロニクスおよび実験(1.5) 知能化技術(1) センサ技術および実験(1.5)	組み込みシステム基礎および実習(1.5) インタフェース技術および実習(1.5)	組み込みシステム応用および実習(1.5) AI技術および演習(2)					
アクチュエータおよび実験(1.5) センサ技術および実験(1.5) センサ技術および実験(1.5)	メカトロニクスおよび実験(1.5) 自動制御および実験(1.5) 自動化技術および実験(1.5)	組み込みシステム基礎および実習(1.5)	組み込みシステム応用および実習(1.5)					
ロボット技術および実験 I (1.5)	ロボット技術および実験 II (1.5)	ロボット技術および実験 III (1.5)	ロボット技術および実験 IV (1.5)					
		伝熱工学(1)						
強度設計および演習(2)								
ユーザ工学(1)	機械要素応用(1) CAD設計製図および実習(1.5) エネルギー工学(1) マイクロデバイス(1)	CAE基礎および演習(2) 工業デザインプロセスおよび実習(1.5) CAD/CAMおよび実習(1.5) CAD/CAMおよび実習(1.5)	CAE応用および演習(2) 3次元CADおよびDTPD演習(2)					
		生産機械(1)						
信頼性工学(1) 産業構造論(1)	テクニカルコミュニケーション(1)	実践に役立つ知財活用戦略(1) トヨタ生産方式実践演習(1)	製品開発計画(1) 生産システム学および演習(2)					
精密計測および実験(1.5) 機械工作法A(1) 機械工作実験(1) 鋳造技術および実習(1.5)	NC機械加工実習(1) 鍛造加工および実習(1.5) 機械工作法B(1) 樹脂成形加工および実習(1.5)	研削加工および実習(1.5)	超精密加工および実習(1.5)					
								専門共通科目
								ロボットシステムコース
								機械デザインコース
								生産システムコース

II-4. カリキュラムマップ

この図は、情報メカトロニクス学科で開講される授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係性を示しています。各科目について、学生が卒業までに身につけるべき能力のどの項目と関連するのかわかっています。履修の計画を立てる際の参考にしてください。

DP	授業科目名							
	1年				2年			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
① 製造関連分野(機械デザイン、ロボットシステム、AI・情報システム、生産システム)に関わる基礎的学力、専門的知識、技術技能の他、実践的な場面で創意工夫ができる現場力を有すること。	フレッシュマンゼミ(2)		ものづくり技術概論(1)	Javascript基礎および実習(1.5)	データマイニング基礎および実習(1.5)	基礎インターンシップ(8)	プロジェクト実習(2)	
	工学基礎および実験(1.5)	ロボット機構基礎および実習(1.5)	Python基礎および実習(1.5)	数値解析基礎および演習(2)	工業数学(1)		ネットワークの仕組(1)	ICT応用および実習(1.5)
	測定基礎実習(0.5)	基礎物理実験(1)	基礎化学(1)	基礎材料学(1)	材料力学 I および実験(1.5)		電気電子技術(1)	CGプログラミングおよび実習(1.5)
	基礎数学 I (1)	基礎数学 II (1)	基礎数学 III (1)	基礎数学 IV (1)	機械システムとメカニズム(1)		デジタル回路および実習(1.5)	デジタル回路および実習(1.5)
	データサイエンスおよび実習(1.5)	ものづくり数理工学(1)	設計技法(1)	プロダクトデザイン(1)	ものづくり実務概論(1)		基礎数値解析(1)	アナログ回路および実習(1.5)
	機械スケッチ演習(1)	基礎物理 I (1)	基礎物理 II (1)	基礎物理 III (1)	基礎物理 IV (1)		熱・流体力学の基礎(1)	半導体(1)
	手仕上げ加工および実習(1.5)	手仕上げ加工および実習(1.5)	手仕上げ加工および実習(1.5)	手仕上げ加工および実習(1.5)	工業材料A(1)		工業材料B(1)	電気電子回路および実験(1.5)
	機械加工基礎および実習(1.5)	機械加工基礎および実習(1.5)	機械加工基礎および実習(1.5)	機械加工基礎および実習(1.5)			機械力学および実験(1.5)	制御設計基礎および実習(1.5)
	NCプログラム基礎および実習(1.5)	NCプログラム基礎および実習(1.5)	NCプログラム基礎および実習(1.5)	NCプログラム基礎および実習(1.5)			材料力学 II (1)	制御技術および実験(1.5)
	溶接基礎・板金基礎および実習(1.5)	溶接基礎・板金基礎および実習(1.5)	溶接基礎・板金基礎および実習(1.5)	溶接基礎・板金基礎および実習(1.5)			実践機械製図および製作 I (1.5)	実践機械製図および製作 II (1.5)
		基礎機械製図および実習(1.5)	2次元CADおよび実習 I (1.5)	3次元CADおよび実習 I (1.5)			3次元CAD実習 II (1)	2次元CAD実習 II (1)
			デジタルファブ리케이션および実習(1.5)				生産管理(1)	統計的データ解析(1)
			機械工学概論(1)				鋳造基礎実習(1)	熱力学(1)
								流体力学(1)
								材料強度(1)
								材料評価および実験(1.5)
							品質管理(1)	
							自動車生産技術(1)	
							変形加工および実習(1.5)	
② 学修課程のなかでチームが一丸となる協調性を持ち、また、リーダーとしての課題設定と解決のためのマネジメント力、困難を乗り越えられる耐力と胆力を有すること。	フレッシュマンゼミ(2)		設計技法(1)	電気工学概論(1)	データマイニング基礎および実習(1.5)		プロジェクト実習(2)	
	測定基礎実習(0.5)	基礎物理実験(1)	手仕上げ加工および実習(1.5)	手仕上げ加工および実習(1.5)	基礎電気工学および実験(1.5)		Webデザインおよび実習(1.5)	ICT応用および実習(1.5)
	手仕上げ加工および実習(1.5)	手仕上げ加工および実習(1.5)	機械加工基礎および実習(1.5)	機械加工基礎および実習(1.5)	材料力学 I および実験(1.5)		デジタル回路および実習(1.5)	デジタル回路および実習(1.5)
	機械加工基礎および実習(1.5)	機械加工基礎および実習(1.5)	NCプログラム基礎および実習(1.5)	NCプログラム基礎および実習(1.5)	工業材料A(1)		工業材料B(1)	アナログ回路および実習(1.5)
	NCプログラム基礎および実習(1.5)	NCプログラム基礎および実習(1.5)		数値解析基礎および演習(2)			生産管理(1)	電気電子回路および実験(1.5)
							鋳造基礎実習(1)	制御設計基礎および実習(1.5)
③ 多様化する製造関連業界の一員となるため、異文化などの受容と尊重が行え、更に進化する科学技術や社会経済のグローバル化にも対応できる能力を有すること。	ビジネスコミュニケーション I (1)	ビジネスコミュニケーション II (1)	ものづくり技術概論(1)		ものづくり実務概論(1)	基礎インターンシップ(8)	熱・流体力学の基礎(1)	ICT応用および実習(1.5)
								熱力学(1)
								流体力学(1)
								自動車生産技術(1)
④ 実社会が要求する専門的知識と技術技能に加え、社会性や倫理性を持って価値観の違う相手との双方向コミュニケーションが図れる能力を有すること。	フレッシュマンゼミ(2)			プロダクトデザイン(1)		基礎インターンシップ(8)	プロジェクト実習(2)	
	ビジネスコミュニケーション I (1)	ビジネスコミュニケーション II (1)					生産管理(1)	ICT応用および実習(1.5)
		基礎物理実験(1)						CGプログラミングおよび実習(1.5)
								統計的データ解析(1)
								品質管理(1)
							自動車生産技術(1)	

C. カリキュラム

(建設学科 2022年度入学者適用)

- I. カリキュラム (教育課程)
- II. 授業科目
- III. 資格関連指定科目

※授業に関しては毎年、一部変更が生じることがあるため、WEBシラバスにて常に最新情報を入手のうえ、履修計画を作成してください。

I. カリキュラム（教育課程）

I-1. ディプロマ・ポリシー	51
I-2. カリキュラム・ポリシー	52
I-3. 応用課程のコース	53
I-4. 測量士補取得のためのGSコース	55
I-5. 取得可能な資格	56

I-1. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、建設学科が定めた以下の能力を身につけ、卒業要件として定める専門的な学修を体得し、その基準を満たした者に学位を授与する。

- ① 建設関連分野（木造建築、都市・建築、仕上・インテリア、建築デザイン）に関わる基礎的学力、専門的知識、技術技能の他、実践的な場面で創意工夫ができる現場力を有すること。
- ② 学修課程のなかでチームが一丸となる協調性を持ち、また、リーダーとしての課題設定と解決のためのマネジメント力、困難を乗り越えられる耐力と胆力を有すること。
- ③ 多様化する建設関連業界の一員となるため、異文化などの受容と尊重が行え、更に進化する科学技術や社会経済のグローバル化にも対応できる能力を有すること。
- ④ 実社会が要求する専門的知識と技術技能に加え、社会性や倫理性を持って価値観の違う相手との双方向コミュニケーションが図れる能力を有すること。

I-2. カリキュラム・ポリシー(教育課程の内容・方法の方針)

本学の「基本理念」と「ディプロマ・ポリシー」に掲げる、高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、建設学科では以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- ① 入学から卒業までの教育課程を三段階に分け、4 学期制（quarter 制度）の下で1 年1 学期から 2 年 2 学期までを「基礎課程」、2 年 3 学期から 3 年 4 学期までを「応用課程」、そして 4 年 1 学期から 4 年 4 学期までを「専門研究課程」として、段階的に高度な実践力が身に付く科目配当とする。
- ② 基礎課程では、建設関連分野（木造建築、都市・建築、仕上・インテリア、建築デザイン）に関わる基礎的な専門知識を、講義と実験・実習を通して幅広く学び、それを踏まえて基礎課程を総括する長期の基礎インターンシップで実務を体験し、学修者が目標とする将来像を明らかとする。
- ③ 応用課程では、学修者が到達目標に掲げる将来像をより確かなものとするため、4 コースの中から主専攻を定めてより高度な専門知識を、講義と実験・実習を通して幅広く学ぶものとするが、その他のコース科目についても履修することは可能で、創意工夫が行える総合的な実践力を身に付ける。
- ④ 専門研究課程では、所属する研究室教員の指導を受け、建設学科教育課程の集大成として、卒業研究という課題設定に対して主体性と協調性を持ち、1 年間を通して実施した専門的研究成果を明らかとし、即戦力として社会に貢献できる技術・技能を確立させる。
- ⑤ 上掲の基礎課程から専門研究課程の段階を通じ、テクノロジスト育成に必要不可欠なる教養科目を配当する。基礎課程は初年次教育として、メディアリテラシーやデータサイエンスまた外国語も含め、アカデミックスキルを中心として学ぶ。応用課程では、本学設立に寄与した梅原猛とピーター・ドラッカーの思想的営為を理解すべく人文・社会科学さらに自然科学を学び、加えて、卒業後を見据え社会人としての社会性・倫理性を身に付ける。

I-3. 応用課程のコース

応用課程（2年次3クォータ～3年次4クォータ）では、各専門分野の技能技術および専門知識の修得を目的とした4つのコースを設置しています。各コースの履修方法等については、事前にガイダンスまたは掲示を行います。

応用課程に置かれるコースは、木造建築コース（T）、都市・建築コース（S）、仕上・インテリアコース（F）、建築デザインコース（D）の4コースです。

配当される各授業科目の内容等については、WEBシラバスを参照してください。

各コースのエデュケーション・ポリシーは以下の通りです。

1) 木造建築コース（Tコース）

① 目標とする学修成果

古代から現代まで脈々と受け継がれてきた木造建築技術。それは伝統構法を始めとし、木造軸組や枠組構法のほか、耐震面にも優れた新構法、そして近年では大規模な都市木造を可能とするハイブリット構法などが創出されています。このように、木を活かした建築は今後さらなる発展が見込まれていますが、当コースでは実践的な授業を通して専門的な技術・技能と知識を修得することで、木造建築のスペシャリストとして、戸建住宅・木造集合住宅・大規模な木造公共建築や社寺建築のほか、現代まで継承されてきた歴史的建造物の保存修理事業などにも従事できるテクノロジストを育成していきます。

② 授業科目編成

基礎課程では木材特性などを理解するため、まずは各種大工道具の取り扱い方から始まり、墨付け・木材加工・継手仕口の接手法を学んでいきます。その後、徐々に高度となる課題をこなすことで、木組みの一連の流れを理解するようにします。基礎インターンシップ後の応用課程からは、実践的な伝統構法や軸組構法による木造建築の課題に取り組み、設計・積算・仮設計画・原寸図制作・木材加工・組立を段階的に進め、実物大の建築をチームで完成させます。また、構造特性の理解を深める目的から、構造設計や構造実験も併せて実施し、木材樹種や人工木材との所定断面強度の違いも理解を深めるようにします。

このように、総合的に木造建築が学べる授業科目編成となります。

2) 都市・建築コース（Sコース）

① 目標とする学修成果

イギリスの産業革命が契機となり創出された新建材の鉄と鉄筋コンクリート。生産技術の進化により、世界で初めて18世紀後期に铸铁製アーチ橋が実現化し、さらに19世紀後期には鉄筋コンクリート造の建物も出現しました。これら新建材の特徴は自由な造形美と広い空間の確保に加え、災害にも強いという特性がありますが、正に都市を構成する建築物・構築物の主流となっています。当コースでは実践的な授業を通して専門的な技術・技能と知識を修得することで、都市・建築のスペシャリストとして、大規模な集合住宅・商業施設・公共建築や医療・学校建築のほか、社会基盤となるインフラ構造物の建設事業や都市計画などにも従事できるテクノロジストを育成していきます。

② 授業科目編成

基礎課程では鉄筋やコンクリート特性などを理解するため、まずは調合や材料の強度測定試験から始まり、鋼材溶接・型枠・配筋・コンクリート打設・養生手法を学んでいきます。一方、建設現場で必須となる各種足場の計画・組立・解体も学び、建設計画の一連の流れを理解するよ

うにします。基礎インターンシップ後の応用課程からは、実践的な鉄筋コンクリート構造物や鋼構造物の課題に取り組み、それらの材料特性・構造性能・維持管理技術を修得し、さらに新たなハイブリット構法や耐震技術なども学んで理解を深めます。また、都市や社会基盤の維持保全・整備についても学修し、災害に強く暮らし易い国土の創生に関する専門的知識も身に付けます。このように、総合的に都市・建築が学べる授業科目編成となります。

3) 仕上・インテリアコース (F コース)

① 目標とする学修成果

建築を風雨などから守りその美を知らしめる仕上・インテリア技術。仏教伝来に伴って造立されたわが国の古代寺院建築も木部を朱塗りとする事で、建築装飾と防腐の役目を持たせていました。このように、建築保全と装飾美の追求は豊かな人間生活には欠かせないもので、古今東西の永遠の課題である一方、大いなる可能性が秘められた分野でもあると言えます。当コースでは実践的な授業を通して専門的な技術・技能と知識を修得することで、仕上・インテリアのスペシャリストとして、あらゆる建築物の内外装のほか、家具製作やランドスケープ整備事業などにも従事できるテクノロジストを育成していきます。

② 授業科目編成

基礎課程では建築躯体を風雨から守る仕上素材特性などを理解するため、まずは各種塗料調合や塗装施工技術から始まり、屋根防水・外装タイルおよび左官仕上・鉄筋コンクリート構造物外装仕上げ・鋼構造物外装仕上げ手法を学んでいきます。このような課題をこなすことで、仕上技術の一連の流れを理解するようにします。基礎インターンシップ後の応用課程からは、実践的な各種建築物のインテリア計画と設計演習のほか、湿式工法・乾式工法・塗装工法を修得し、さらに豊かな人間生活を実現するための家具製作も学んで理解を深めます。また、人間生活と自然との共生を意図したランドスケープ・デザインについても学修し、地域固有の自然と文化継承に関する専門的知識も身に付けます。

このように、総合的に仕上・インテリアが学べる授業科目編成となります。

4) 建築デザインコース (D コース)

① 目標とする学修成果

古来より、建築デザインは環境と共生するありかたを模索してきました。特にわが国は、自然を敬い四季折々の環境に対応するため、五感を使った豊かな感性と細やかな気遣いによって建築がつくられてきました。安全性・機能性・耐久性・意匠性、そして現代においては地球温暖化・サステナブル・省エネ・住民の健康など、建築をつくるうえで考慮すべきことは多岐に渡ります。当コースでは、実践的な授業を通して専門的な知識・技術を修得することで、環境・建築デザインのスペシャリストとして、戸建住宅・集合住宅・商業住宅・公共建築や医療・学校建築のほか、地球規模の環境問題などにも従事できるテクノロジストを育成していきます。

② 授業科目編成

基礎課程では建築設計意図の有効な伝達手段となるドローイング手法などを理解するため、まずは手描きによる作図図法やトレース・模型製作から始まり、木造住宅や低層の鉄筋コンクリート造建物の設計技術を学んでいきます。このような課題をこなすことで、建築設計の一連の流れを理解するようにします。基礎インターンシップ後の応用課程からは、コンピュータを駆使した作図技法を修得するほか、実践的な課題として仮定建設用地の現地視察調査・法令確認・エスキス・作図・プレゼンテーションなどで設計の理解を深めます。また、環境設計や各種設備設計などについても学修し、幅広い設計知識を身に付けます。

このように、総合的に環境・建築デザインが学べる授業科目編成となります。

I-4. 測量士補取得のためのG S コース

測量士補資格取得のためのG S コース (Geographical Surveyor's Course) の設置を国土地理院に申請中です。G S コースを修了した場合、卒業後に測量士補の登録を行うことができます。

G S コースの履修は定員制のため希望者から選抜となりますので、掲示等を確認してください。

G S コースを修了するためには、G S コースの必修科目を修得し合格し、かつ、指定された授業科目の中から基準以上の単位数を取得する必要があります。G S コースの必修科目および指定授業科目については、別冊の「測量士補取得のためのG S コース」を参照してください。

I-5. 取得可能な資格

建設学科では、在学中または卒業後に下表の通り様々な建設関連資格の取得(受験資格含む)が可能です。それぞれの資格における指定科目等の条件設定については、「Ⅲ. 資格関連指定科目」または「WEBシラバス」を参照して下さい。

卒業（または在学）時に取得あるいは受験資格を得られる主な資格	
技術士補	技術士第一次試験受験資格 合格者は技術士補に登録可
アーク溶接特別教育	所定の授業（溶接基礎および実習）を履修し、所定の成績で合格した者に修了証交付
建築積算士補	所定の授業（建設積算Ⅰ）を履修し、所定の成績で合格した者は資格取得
測量士補	所定の授業（GSコース）を履修し単位を修得した者は卒業時に登録 *国土地理院に申請中
一級建築士	大学で認定を受けた指定科目を所定単位以上修得して受験資格 資格登録は、取得単位数により異なる
二級建築士	
木造建築士	
本学のカリキュラムを履修することで受験に有利となる主な資格	
基本情報技術者	2～3年次で受験準備 ものづくりの現場でのIT化に貢献する資格
玉掛け技能 小型移動クレーン運転技能、 フォークリフト運転技能等	学内掲示により、指定期間に短期講習申込・受講（費用別途）
三級または二級技能検定 （建築大工、造園、左官、 家具製作、とび等）	学内掲示により、特別講習の日程に合わせて申込・研修参加・受験（費用別途）
商業施設士補	大学で認定を受けた指定科目を34単位以上修得し、商業施設士補資格講習会を受講修了すること（費用別途）
実務経験を重ねることによって受験資格が得られる主な資格	
技術士	技術士補または第一次試験合格後、4年の実務経験で第二次試験の受験資格 合格者は技術士に登録
測量士	測量士補として実務経験1年で資格取得
二級施工管理技士 （土木、建築、管工事、造園、 建設機械）	実務経験1年で受験資格
一級施工管理技士 （土木、建築、管工事、造園、 建設機械）	実務経験3年で受験資格
建築設備士	実務経験2年で受験資格

Ⅱ. 授業科目

Ⅱ-1. 授業科目配当表（2022年度入学生）	58
Ⅱ-2. 授業科目一覧	60
Ⅱ-3. カリキュラムツリー	64
Ⅱ-4. カリキュラムマップ	66

3年					4年			
1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	
応用課程					専門研究課程			
ものづくり・ひとつくり総合講義B	1 言語と文化	1 日本文化論	1 文明と社会	1 梅原猛で学ぶ 学問と世界	1 Druckerで学ぶ マネジメント			
社会人基礎力育成講座Ⅲ					社会人基礎力育成講座Ⅳ			
応用ゼミ					Lゼミ			
西洋建築史	1 日本建築史	1 近現代建築史	1 保全・保存修復学	卒業研究および制作				
建築設備工学B	1 建築法規Ⅱ	1 建設概算Ⅰ	1 建設概算Ⅱ					
建築法規Ⅰ		1 建築法規Ⅲ	1					
工程計画Ⅱ								
木造軸組工法	1 木造住宅設計および実習Ⅰ	1.5 木造住宅設計および実習Ⅱ	1.5 木造住宅設計および実習Ⅲ					
木造応用および実習Ⅲ	1.5 木造応用および実習Ⅴ	1.5 木造応用および実習Ⅶ	1.5					
木造応用および実習Ⅳ	1.5 木造応用および実習Ⅵ	1.5 木造応用および実習Ⅷ	1.5					
木質構造新工法	1							
木質構造設計演習Ⅰ	1 木質構造設計演習Ⅱ	1 木質構造および実験Ⅰ	1.5 木質構造および実験Ⅱ					
都市インフラおよび実習	1.5 水理・土質工学	1 自然・都市	1 建設マネジメント					
地盤調査土質実験および実習	1.5 水防工学	1	1.5 RC構造物診断および実習					
RC施工	1 新耐震設計法および演習	2 建築構法	1 地震防災工学					
鉄筋コンクリート構造RC構造物応用および実習Ⅰ	1.5 RC構造物応用および実習Ⅱ	1.5	1.5 鉄筋コンクリート構造物設計および実習					
ランドスケープ設計および実習Ⅰ	1.5 造園・ガーデニング技法	1 仕上げ・下地・乾式・湿式	1 外装仕上および実習Ⅰ					
	1.5 ランドスケープ設計および実習Ⅱ	1.5	1.5 外装仕上および実習Ⅱ					
木材工学	1 木材加工法	1 家具技能および実習Ⅱ	1.5 家具技能および実習Ⅳ					
インテリア設計および実習	1.5 家具技能および実習Ⅰ	1.5 家具技能および実習Ⅲ	1.5 家具技能および実習Ⅴ					
環境設計および実習B	1.5 環境調査測定および実習	1.5 建築設備および実習	1.5 建築設備設計および実習Ⅱ					
建設CADおよび実習Ⅱ	1.5 建設CADおよび実習Ⅲ	1.5 建築設備設計および実習Ⅰ	1.5					
建築応用設計および実習Ⅲ	1.5 建築応用設計および実習Ⅳ	1.5 建築応用設計および実習Ⅴ	1.5 建築応用設計および実習Ⅵ					
	1 景観計画	1 建築観察学	1 ユニバーサルデザイン設計および実習					
専門インターンシップ（一般・建築士・測量）					8			

注 必修科目

II-2. 授業科目一覧

開講される学期が変更される場合がありますので、各年度の時間割で確認してください。

	授業科目の名称 (正式名称案)	配当年次	時間数	単位数			建築士	測量士補 ◎必修 △選択	商業施設士補
				必修	選択	選択必修			
教養科目	ICT基礎および実習I	1	2	1.5					
	安全衛生	1	1	1					
	ものづくり・ひとづくり総合講義A	1	2			2			
	スポーツ・コミュニケーション	1	1			1			
	ICT基礎および実習II	1	2			1.5			
	英語 I	1	2			2			
	英語 II	1	2			2			
	デザイン思考	1	1			1			
	創作実習A	1	1			1			
	創作実習B	1	1			1			
社会人基礎力育成講座 I	1	1			1				
専門共通科目	Fゼミ	1	2	2					
	構造力学 I	1	1	1			⑤	◎	A-5
	建築計画 I	1	1	1			②		
	基礎数学 I	1	1		1			◎	
	基礎数学 II	1	1		1			◎	
	建設概論	1	1		1				
	構造力学 II	1	1		1		⑤	◎	A-5
	地盤工学	1	1		1			◎	
	安全工学	1	1		1		⑩		A-3
	構工法 I	1	1		1		⑥		
	構工法 II	1	1		1		⑥		A-4
	社会基盤	1	1		1		⑧	△	
	木材基礎	1	1		1		⑦		A-4
	測量基礎および実習	1	2		1.5		⑩	◎	A-5
	都市計画	1	1		1		⑩	◎	A-3
木質材料および木材乾燥	1	1		1		⑦		A-4	
専門科目	基礎設計製図および実習Ⅲ	1	2	1.5			①		B-1
	木造基礎および実習 I	1	2		1.5				A-5
	木造基礎および実習 II	1	2		1.5		⑧		A-5
	木造基礎および実習 III	1	2		1.5		⑩		A-5
	木造基礎および実習 IV	1	2		1.5				A-5
	構造基礎および実習 I	1	2		1.5		⑧		A-5
	構造基礎および実習 II	1	2		1.5		⑦	△	A-5
	構造基礎および実習 III	1	2		1.5		⑧		A-5
	構造基礎および実習 IV	1	2		1.5		⑧		
	基礎設計製図および実習 I	1	2		1.5		⑩		B-1
	基礎設計製図および実習 II	1	2		1.5		①		B-1
	基礎設計製図および実習 IV	1	2		1.5		①		B-1
	仕上基礎および実習 I	1	2		1.5				
	仕上基礎および実習 II	1	2		1.5		⑧		
	仕上基礎および実習 III	1	2		1.5		⑧		
仕上基礎および実習 IV	1	2		1.5		⑧			
教養科目	社会人基礎力育成講座 II	2	1	1					
	英語 III	2	2			2			
	救命衛生法	2	1			1			
	SDGs-A	2	1			1			
	SDGs-B	2	1			1			

	授業科目の名称 (正式名称案)	配当年次	時間数	単位数			建築士	測量士補 ◎必修 △選択	商業施設士補
				必修	選択	選択必修			
専門共通科目	基礎ゼミ	2	2	2					
	建築環境工学A	2	1	1			③		
	材料力学Ⅰ	2	1		1		⑤	◎	
	材料力学Ⅱ	2	1		1		⑤		A-5
	工程計画Ⅰ	2	1		1		⑧		A-4
	仕上材料学	2	1		1		⑦		A-5
	建築施工	2	1		1				
	建築設備工学A	2	1		1		④		
	建築環境工学B	2	1		1		③		A-3
	応用力学	2	1		1		⑤	△	
	建設CADおよび実習Ⅰ	2	2		1.5		①		B-1
	測量Ⅰ	2	1		1		⑩	◎	
	測量Ⅱ	2	1		1			◎	
	建築生産	2	1		1		⑧	◎	
	測量および実習Ⅰ	2	2		1.5		⑩	◎	
測量および実習Ⅱ	2	2		1.5			◎		
専門科目	一般基礎インターンシップ	2	40日	8					
	建築士基礎インターンシップ	2	40日	8			⑩		
	測量基礎インターンシップ	2	40日	8				△	
	木造基礎および実習Ⅴ	2	2		1.5		⑩		
	構造基礎および実習Ⅴ	2	2		1.5		⑧		
	基礎設計製図および実習Ⅴ	2	2		1.5		①		
	鋼構造物応用および実習	2	2		1.5		⑧	△	
	建築応用設計および実習Ⅰ	2	2		1.5		①		B-1
	建築応用設計および実習Ⅱ	2	2		1.5		①		B-1
	仕上基礎および実習Ⅴ	2	2		1.5		⑧		A-5
	人間工学	2	1		1		②		A-3
	建築計画Ⅱ	2	1		1		②		
	インテリア計画	2	1		1		②		A-3
	鋼構造	2	1		1		⑥		A-4
	木割と規矩	2	1		1		⑩		
	住宅論	2	1		1		②		
	木造応用および実習Ⅰ	2	2		1.5		⑧		A-5
	木造応用および実習Ⅱ	2	2		1.5		⑧		A-5
	伝統構法構造物および実習Ⅰ	2	2		1.5		⑩		A-5
	伝統構法構造物および実習Ⅱ	2	2		1.5		⑩		A-5
	湿式仕上技能および実習	2	2		1.5		⑧		A-5
乾式仕上技能および実習	2	2		1.5		⑧		A-5	
環境設計および実習A	2	2		1.5		③			
教養科目	ものづくり・ひとつり総合講義B	3	1			1			
	言語と文化	3	1			1			
	日本文化論	3	1			1			A-1
	文明と社会	3	1			1			
	社会人基礎力育成講座Ⅲ	3	1			1			
専門共通科目	応用ゼミ	3	2	2					
	建築法規Ⅰ	3	1	1			⑨		
	工程計画Ⅱ	3	1		1		⑧		A-4
	建築法規Ⅱ	3	1		1		⑨		A-4
	建築法規Ⅲ	3	1		1		⑨		A-4
	西洋建築史	3	1		1		②		A-3
	建築設備工学B	3	1		1		④		A-3
	建設積算Ⅰ	3	1		1		⑧		A-4
	建設積算Ⅱ	3	1		1		⑧		A-4
	日本建築史	3	1		1		②		A-3
	近現代建築史	3	1		1		②		A-3
保全・保存修復学	3	1		1		②			

	授業科目の名称 (正式名称案)	配当年次	時間数	単位数			建築士	測量士補 ◎必修 △選択	商業施設士補	
				必修	選択	選択必修				
専門科目	建設CADおよび実習Ⅱ	3	2		1.5		①		B-1	
	建設CADおよび実習Ⅲ	3	2		1.5		⑩		B-1	
	インテリア設計および実習	3	2		1.5		①		B-1	
	ユニバーサルデザイン設計および実習	3	2		1.5					
	木造軸組工法	3	1		1		⑥			
	木材工学	3	1		1		⑦		A-4	
	鉄筋コンクリート構造	3	1		1		⑥	△	A-4	
	建築観察学	3	1		1		②			
	仕上げ・下地・乾式・湿式	3	1		1		⑦		A-5	
	木質構造新工法	3	1		1		⑥		A-5	
	木材加工法	3	1		1					
	水理・土質工学	3	1		1		⑤	◎		
	水防工学	3	1		1			△		
	RC施工	3	1		1		⑧		A-5	
	自然・都市	3	1		1			◎	A-3	
	ランドスケープ設計および実習Ⅰ	3	2		1.5		⑩		B-1	
	造園・ガーデニング技法	3	1		1		⑩			
	木質構造設計演習Ⅰ	3	1		1		⑥		B-1	
	木質構造設計演習Ⅱ	3	1		1		⑥		B-1	
	建築構法	3	1		1		⑩		A-4	
	景観計画	3	1		1		②		A-3	
	地震防災工学	3	1		1		⑤			
	木造応用および実習Ⅲ	3	2		1.5		⑧		A-5	
	木造応用および実習Ⅳ	3	2		1.5		⑧		A-5	
	木造応用および実習Ⅴ	3	2		1.5		⑧		A-5	
	木造応用および実習Ⅵ	3	2		1.5		⑧		A-5	
	専門科目	木造応用および実習Ⅶ	3	2		1.5		⑧		A-5
		木造応用および実習Ⅷ	3	2		1.5		⑧		A-5
		木質構造および実験Ⅰ	3	2		1.5		⑦		A-5
		木質構造および実験Ⅱ	3	2		1.5		⑥		A-5
		構造物強度設計および実習	3	2		1.5			◎	
		鉄筋コンクリート構造物設計および実習	3	2		1.5				
地盤調査土質実験および実習		3	2		1.5		⑩	◎	A-5	
RC構造物応用および実習Ⅰ		3	2		1.5		⑧		A-5	
RC構造物応用および実習Ⅱ		3	2		1.5		⑧		A-5	
都市インフラおよび実習		3	2		1.5			△		
木造住宅設計および実習Ⅰ		3	2		1.5		①		B-1	
木造住宅設計および実習Ⅱ		3	2		1.5		①		B-1	
木造住宅設計および実習Ⅲ		3	2		1.5		①		B-1	
建築応用設計および実習Ⅲ		3	2		1.5		①		B-1	
建築応用設計および実習Ⅳ		3	2		1.5		①		B-1	
建築応用設計および実習Ⅴ		3	2		1.5		①		B-1	
建築応用設計および実習Ⅵ		3	2		1.5		①		B-1	
建築設備および実習		3	2		1.5		⑩		A-5	
環境設計および実習B		3	2		1.5		④			
環境調査測定および実習		3	2		1.5		③			
家具技能および実習Ⅰ		3	2		1.5				A-5	
家具技能および実習Ⅱ		3	2		1.5				A-5	
家具技能および実習Ⅲ		3	2		1.5				A-5	
家具技能および実習Ⅳ		3	2		1.5				A-5	
家具技能および実習Ⅴ		3	2		1.5				A-5	
RC構造物診断および実習		3	2		1.5		⑧			
建築設備設計および実習Ⅰ		3	2		1.5		④			
建築設備設計および実習Ⅱ		3	2		1.5		④			
新耐震設計法および演習		3	2		2		⑤			
ランドスケープ設計および実習Ⅱ		3	2		1.5		⑩			
外装仕上および実習Ⅰ		3	2		1.5		⑧			
外装仕上および実習Ⅱ		3	2		1.5		⑧			
建設マネジメント	3	1		1		⑧	◎	A-1		

	授業科目の名称 (正式名称案)	配当年次	時間数	単位数			建築士	測量士補 ◎必修 △選択	商業施設士補
				必修	選択	選択必修			
教養科目	梅原猛で学ぶ学問と世界	4	1			1			
	Druckerで学ぶマネジメント	4	1			1			
	社会人基礎力育成講座Ⅳ	4	1			1			
専門共通科目	Lゼミ	4	2	8					
	卒業研究および制作	4	4Q分	12					
専門科目	一般専門インターンシップ	4	40日		8				
	建築士専門インターンシップ	4	40日		8	⑩			
	測量専門インターンシップ	4	40日		8		△		

II-3. カリキュラムツリー

この図は、建設学科で開講される授業科目間の関連を学習内容の連続性に基づいて示しています。図から、上級年次の科目を選択するうえで履修しておくことが望ましい科目が分かりますので、履修の計画を立てる際の参考にしてください。なお、専門コースと科目の関係については授業科目一覧または授業科目担当表で確認してください。

	1学年第1Q	1学年第2Q	1学年第3Q	1学年第4Q	2学年第1Q	2学年第2Q	2学年第3Q
ゼミ	Fゼミ			Fゼミ	基礎ゼミ		基礎ゼミ
		建築計画	建設概論 建築計画 I				住宅論 建築計画 II 人間工学
設計製図	基礎設計製図および実習 I	基礎設計製図および実習 II	基礎設計製図および実習 III	基礎設計製図および実習 IV	基礎設計製図および実習 V		建築応用設計および実習 I
				CAD	建設CADおよび実習I		インテリア
						環境設備	建築環境工学A 建築環境工学B
構造材料力学	基礎数学 I	基礎数学 II	構造力学 I	構造力学 II	材料力学 I		材料力学 II
建築生産	構工法 I	構工法 II 安全工学			建築施工 工程計画 I		
木造	木造基礎および実習 I	木造基礎および実習 II	木造基礎および実習 III	木造基礎および実習 IV	木造基礎および実習 V		木造応用および実習 I
木材・家具		木材基礎		木質材料および木材乾燥			
建築仕上げ	仕上基礎および実習 I	仕上基礎および実習 II	仕上基礎および実習 III	仕上基礎および実習 IV	仕上基礎および実習 V 仕上材料学		湿式仕上技能および実習
一般構造	構造基礎および実習 I	構造基礎および実習 II	構造基礎および実習 III	構造基礎および実習 IV	構造基礎および実習 V		伝統構法構造物および実習 I 伝統構法構造物および実習 II 鋼構造物応用および実習
社会基盤	測量基礎および実習			地盤工学 社会基盤 都市計画			測量 I 測量および実習 I

2学年第4Q	3学年第1Q	3学年第2Q	3学年第3Q	3学年第4Q	4学年第1Q	4学年第2Q	4学年第3Q	4学年第4Q
基礎ゼミ				応用ゼミ	Lゼミ			
	西洋建築史	日本建築史	近現代建築史	保全・保存修復学				
		景観計画	建築観察学					
建築応用設計および実習Ⅱ	建築応用設計および実習Ⅲ	建築応用設計および実習Ⅳ	建築応用設計および実習Ⅴ	建築応用設計および実習Ⅵ	ユニバーサルデザイン設計および実習			
インテリア計画	インテリア設計および実習							
	建設CADおよび実習Ⅱ	建設CADおよび実習Ⅲ						
建築設備工学A	建築設備工学B			建築設備設計および実習Ⅰ	建築設備設計および実習Ⅱ			
環境設計および実習A	環境設計および実習B	環境調査測定および実習	建築設備および実習					
建築法規	建築法規Ⅰ	建築法規Ⅱ	建築法規Ⅲ					
応用力学	新耐震設計法および演習			地震防災工学				
建築生産	工程計画Ⅱ		建設積算Ⅰ	建設積算Ⅱ				
			建築構法					
木造応用および実習Ⅱ	木造応用および実習Ⅲ	木造応用および実習Ⅴ	木造応用および実習Ⅶ					
	木造応用および実習Ⅳ	木造応用および実習Ⅵ	木造応用および実習Ⅷ					
木割と規矩	木造軸組工法	木造住宅設計および実習Ⅰ	木造住宅設計および実習Ⅱ	木造住宅設計および実習Ⅲ				
	木質構造新工法							
	木質構造設計演習Ⅰ	木質構造設計演習Ⅱ	木質構造および実験Ⅰ	木質構造および実験Ⅱ				
	木材工学	木材加工法	家具技能および実習Ⅱ	家具技能および実習Ⅳ				
		家具技能および実習Ⅰ	家具技能および実習Ⅲ	家具技能および実習Ⅴ				
乾式仕上技能および実習				仕上げ・下地・乾式・湿式	外装仕上および実習Ⅰ			
					外装仕上および実習Ⅱ			
	RC構造物応用および実習Ⅰ	RC構造物応用および実習Ⅱ						
	RC施工							
鋼構造	鉄筋コンクリート構造							
測量Ⅱ	地盤調査土質実験および実習	構造物強度設計および実習	自然・都市	建設マネジメント				
測量および実習Ⅱ	都市インフラおよび実習	水理・土質工学			RC構造物診断および実習			
		水防工学			鉄筋コンクリート構造物設計および実習			
造園	ランドスケープ設計および実習Ⅰ	ランドスケープ設計および実習Ⅱ						
		造園・ガーデニング技法						

II-4. カリキュラムマップ

この図は、建設学科で開講される授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係性を示しています。各科目について、学生が卒業までに身につけるべき能力のどの項目と関連するのかわかりやすく示しています。履修の計画を立てる際の参考にしてください。

ディプロマ・ポリシー (DP)	授業科目名							
	1年				2年			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	
① 建設関連分野(木造建築、都市・建築、仕上・インテリア、建築デザイン)に関わる基礎的学力、専門的知識、技術技能の他、実践的な場面で創意工夫ができる現場力を有すること。	木造基礎および実習Ⅰ	基礎設計製図および実習Ⅱ	構造力学Ⅰ	木造基礎および実習Ⅳ	基礎ゼミ	一般基礎インターンシップ	基礎ゼミ	
	測量基礎および実習	構造基礎および実習Ⅱ	建築計画Ⅰ	社会基盤	仕上材料学	建築士基礎インターンシップ	建築環境工学A	
	基礎数学Ⅰ	安全工学	基礎設計製図および実習Ⅲ	地盤工学	木造基礎および実習Ⅴ	測量基礎インターンシップ	建築環境工学B	
	構工法Ⅰ	仕上基礎および実習Ⅱ	木造基礎および実習Ⅲ	構造力学Ⅱ	建築施工		鋼構造物応用および実習	
	構造基礎および実習Ⅰ	構工法Ⅱ	建設概論	基礎設計製図および実習Ⅳ	材料力学Ⅰ		建築応用設計および実習Ⅰ	
	基礎設計製図および実習Ⅰ	木造基礎および実習Ⅱ	構造基礎および実習Ⅲ	構造基礎および実習Ⅳ	工程計画Ⅰ		測量および実習Ⅰ	
	仕上基礎および実習Ⅰ	木材基礎	仕上基礎および実習Ⅲ	仕上基礎および実習Ⅳ	建設CADおよび実習Ⅰ		人間工学	
		基礎数学Ⅱ		都市計画	構造基礎および実習Ⅴ		建築計画Ⅱ	
				木質材料および木材乾燥			住宅論	
							木造応用および実習Ⅰ	
② 学修課程のなかでチームが一丸となる協調性を持ち、また、リーダーとしての課題設定と解決のためのマネジメント力、困難を乗り越えられる耐力と胆力を有すること。	Fゼミ	木造基礎および実習Ⅱ	構造基礎および実習Ⅲ	Fゼミ	基礎ゼミ	一般基礎インターンシップ	基礎ゼミ	
	木造基礎および実習Ⅰ	構造基礎および実習Ⅱ	仕上基礎および実習Ⅲ	仕上基礎および実習Ⅳ	木造基礎および実習Ⅴ	建築士基礎インターンシップ	鋼構造物応用および実習	
	測量基礎および実習	安全工学			工程計画Ⅰ	測量基礎インターンシップ	建築応用設計および実習Ⅰ	
	構工法Ⅰ				構造基礎および実習Ⅴ		木造応用および実習Ⅰ	
	構造基礎および実習Ⅰ				基礎設計製図および実習Ⅴ		伝統構法構造物および実習Ⅰ	
	仕上基礎および実習Ⅰ				仕上基礎および実習Ⅴ		伝統構法構造物および実習Ⅱ	
③ 多様化する建設関連業界の一員となるため、異文化などの受容と尊重が行え、更に進化する科学技術や社会経済のグローバル化にも対応できる能力を有すること。	測量基礎および実習	構工法Ⅱ	建築計画Ⅰ	社会基盤	基礎ゼミ	一般基礎インターンシップ	基礎ゼミ	
	構工法Ⅰ	安全工学	建設概論	仕上基礎および実習Ⅳ	工程計画Ⅰ	建築士基礎インターンシップ	建築環境工学A	
	仕上基礎および実習Ⅰ				基礎設計製図および実習Ⅴ	測量基礎インターンシップ	測量Ⅰ	
					仕上基礎および実習Ⅴ		建築環境工学B	
							建築応用設計および実習Ⅰ	
④ 実社会が要求する専門的知識と技術技能に加え、社会性や倫理性を持って価値観の違う相手との双方コミュニケーションが図れる能力を有すること。	Fゼミ			Fゼミ	基礎ゼミ	一般基礎インターンシップ	基礎ゼミ	
				構造基礎および実習Ⅳ	木造基礎および実習Ⅴ	建築士基礎インターンシップ	建築応用設計および実習Ⅰ	
							人間工学	

授業科目名

3年										4年						
4Q		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q							
基礎ゼミ		建築法規Ⅰ	木材加工法	応用ゼミ		Lゼミ										
建築生産	工程計画Ⅱ	造園・ガーデニング技法	建築法規Ⅲ	建設積算Ⅱ	卒業研究および制作											
測量Ⅱ	建設CADおよび実習Ⅱ	日本建築史	自然・都市	木質構造および実験Ⅱ	建築士専門インターンシップ											
応用力学	西洋建築史	景観計画	木造応用および実習Ⅶ	RC構造物診断および実習	測量専門インターンシップ											
建築応用設計および実習Ⅱ	インテリア設計および実習	木質構造設計演習Ⅱ	木造応用および実習Ⅷ	家具技能および実習Ⅳ												
インテリア計画	鉄筋コンクリート構造	家具技能および実習Ⅰ	木造住宅設計および実習Ⅱ	家具技能および実習Ⅴ												
測量および実習Ⅱ	建築設備工学B	水理・土質工学	建築応用設計および実習Ⅴ	ユニバーサルデザイン設計および実習												
建築設備工学A	RC施工	水防工学	建築設備設計および実習Ⅰ	保全・保存修復学												
鋼構造	ランドスケープ設計および実習Ⅰ	建設CADおよび実習Ⅲ	建築構法	地震防災工学												
木割と規矩	木造応用および実習Ⅲ	建築法規Ⅱ	仕上げ・下地・乾式・湿式	鉄筋コンクリート構造物設計および実習												
木造応用および実習Ⅱ	木造応用および実習Ⅳ	木造応用および実習Ⅴ	建設積算Ⅰ	木造住宅設計および実習Ⅲ												
乾式仕上技能および実習	地盤調査土質実験および実習	木造応用および実習Ⅵ	近現代建築史	建築応用設計および実習Ⅵ												
環境設計および実習A	RC構造物応用および実習Ⅰ	RC構造物応用および実習Ⅱ	木質構造および実験Ⅰ	建築設備設計および実習Ⅱ												
	都市インフラおよび実習	木造住宅設計および実習Ⅰ	家具技能および実習Ⅱ	外装仕上および実習Ⅰ												
	建築応用設計および実習Ⅲ	建築応用設計および実習Ⅳ	家具技能および実習Ⅲ	外装仕上および実習Ⅱ												
	環境設計および実習B	環境調査測定および実習	建築観察学													
	木造軸組工法	新耐震設計法および演習														
	木質構造新工法	ランドスケープ設計および実習Ⅱ														
	木質構造設計演習Ⅰ															
	木材工学															
基礎ゼミ		工程計画Ⅱ	造園・ガーデニング技法	応用ゼミ		Lゼミ										
建築生産	ランドスケープ設計および実習Ⅰ	景観計画	木造応用および実習Ⅶ	木質構造および実験Ⅱ	卒業研究および制作											
建築応用設計および実習Ⅱ	木造応用および実習Ⅲ	家具技能および実習Ⅰ	木造応用および実習Ⅷ	RC構造物診断および実習	測量専門インターンシップ											
測量および実習Ⅱ	木造応用および実習Ⅳ	木造応用および実習Ⅴ	建築応用設計および実習Ⅴ	家具技能および実習Ⅳ												
鋼構造	RC構造物応用および実習Ⅰ	木造応用および実習Ⅵ	建築設備および実習	家具技能および実習Ⅴ												
木造応用および実習Ⅱ	木造軸組工法	構造物強度設計および実習	建築構法	外装仕上および実習Ⅰ												
乾式仕上技能および実習		RC構造物応用および実習Ⅱ	建設積算Ⅰ	外装仕上および実習Ⅱ												
		建築応用設計および実習Ⅳ	木質構造および実験Ⅰ													
		ランドスケープ設計および実習Ⅱ	家具技能および実習Ⅱ													
			家具技能および実習Ⅲ													
基礎ゼミ		工程計画Ⅱ	造園・ガーデニング技法	応用ゼミ							Lゼミ					
建築生産	西洋建築史	日本建築史	建築構法	建設マネジメント							卒業研究および制作					
測量Ⅱ		景観計画	建設積算Ⅰ	ユニバーサルデザイン設計および実習							測量専門インターンシップ					
建築応用設計および実習Ⅱ		構造物強度設計および実習	近現代建築史	保全・保存修復学												
測量および実習Ⅱ		建築応用設計および実習Ⅳ		地震防災工学												
木割と規矩				建築応用設計および実習Ⅵ												
				外装仕上および実習Ⅰ												
				外装仕上および実習Ⅱ												
基礎ゼミ		建設CADおよび実習Ⅱ	景観計画	応用ゼミ							Lゼミ					
建築応用設計および実習Ⅱ	西洋建築史	家具技能および実習Ⅰ	木造応用および実習Ⅶ	建設マネジメント							卒業研究および制作					
鋼構造	インテリア設計および実習	建設CADおよび実習Ⅲ	木造応用および実習Ⅷ	建設積算Ⅱ							一般専門インターンシップ					
環境設計および実習A	鉄筋コンクリート構造	木造応用および実習Ⅴ	木造住宅設計および実習Ⅱ	RC構造物診断および実習							建築士専門インターンシップ					
	ランドスケープ設計および実習Ⅰ	木造応用および実習Ⅵ	建築応用設計および実習Ⅴ	木造住宅設計および実習Ⅲ												
	木造応用および実習Ⅲ	構造物強度設計および実習	建設積算Ⅰ	建築応用設計および実習Ⅵ												
	木造応用および実習Ⅳ	RC構造物応用および実習Ⅱ														
	RC構造物応用および実習Ⅰ	建築応用設計および実習Ⅳ														
	環境設計および実習B	環境調査測定および実習														
		新耐震設計法および演習														

Ⅲ. 資格関連指定科目

施工管理技士(※)の受験資格取得のための指定科目はありません。
卒業後、定められた実務経験を経て受験が可能となります。

なお、一部職種の2級学科試験に関しては、卒業見込みの4年生は
受験することが可能です。

(※建築・土木・建設機械・電気工事・管工事・造園)
測量士補の資格取得に必要な単位は、別冊を参照してください。

- ・ 建築士資格試験指定科目一覧表 70
- ・ 商業施設士補指定科目一覧表 73

建築士資格試験 指定科目一覧表

指定科目の分類 (単位数)		指定科目として承認された開講科目			
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
①建築設計製図 実務0～2年 (3単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	基礎設計製図および実習Ⅱ	1	選択	1.5
		基礎設計製図および実習Ⅲ	1	必修	1.5
		基礎設計製図および実習Ⅳ	1	選択	1.5
		建設CADおよび実習Ⅰ	2	選択	1.5
		建設CADおよび実習Ⅱ	3	選択	1.5
		基礎設計製図および実習Ⅴ	2	選択	1.5
		建築応用設計および実習Ⅰ	2	選択	1.5
		建築応用設計および実習Ⅱ	2	選択	1.5
		木造住宅設計および実習Ⅰ	3	選択	1.5
		木造住宅設計および実習Ⅱ	3	選択	1.5
		木造住宅設計および実習Ⅲ	3	選択	1.5
		インテリア設計および実習	3	選択	1.5
		建築応用設計および実習Ⅲ	3	選択	1.5
		建築応用設計および実習Ⅳ	3	選択	1.5
		建築応用設計および実習Ⅴ	3	選択	1.5
		単位数小計	単位数小計	建築応用設計および実習Ⅵ	3
24	24				
②～④ 建築計画、 建築環境工学、 建築設備 実務0～2年 (2単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	西洋建築史	3	選択	1
		建築計画Ⅰ	1	必修	1
		近現代建築史	3	選択	1
		人間工学	2	選択	1
		インテリア計画	2	選択	1
		日本建築史	3	選択	1
		住宅論	2	選択	1
		保全・保存修復学	3	選択	1
		景観計画	3	選択	1
		建築観察学	3	選択	1
		建築計画Ⅱ	2	選択	1
	単位数小計	11			
	③建築環境工学 (2単位以上)	建築環境工学A	2	必修	1
		建築環境工学B	2	選択	1
		環境調査測定および実習	3	選択	1.5
		環境設計および実習A	2	選択	1.5
単位数小計	5				
④建築設備 (2単位以上)	建築設備工学A	2	選択	1	
	建築設備工学B	3	選択	1	
	建築設備設計および実習Ⅰ	3	選択	1.5	
	建築設備設計および実習Ⅱ	3	選択	1.5	
	環境設計および実習B	3	選択	1.5	
単位数小計	6.5				
22.5	6.5				
⑤～⑦ 構造力学、 建築一般構造、 建築材料 実務0～2年 (3単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	材料力学Ⅰ	2	選択	1
		構造力学Ⅰ	1	必修	1
		構造力学Ⅱ	1	選択	1
		材料力学Ⅱ	2	選択	1
		応用力学	2	選択	1
		地震防災工学	3	選択	1
		水理・土質工学	3	選択	1
		新耐震設計法および演習	3	選択	2
単位数小計	9				

建築士資格試験 指定科目一覧表

指定科目の分類 (単位数)		指定科目として承認された開講科目			
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	構工法Ⅰ	1	選択	1
		構工法Ⅱ	1	選択	1
		木造軸組工法	3	選択	1
		木質構造新工法	3	選択	1
		木質構造設計演習Ⅰ	3	選択	1
		木質構造設計演習Ⅱ	3	選択	1
		鉄筋コンクリート構造	3	選択	1
		鋼構造	2	選択	1
	単位数小計	木質構造および実験Ⅱ	3	選択	1.5
	9.5				
	⑦建築材料 (2単位以上)	構造基礎および実習Ⅱ	1	選択	1.5
		仕上材料学	2	選択	1
		木材基礎	1	選択	1
		木質材料および木材乾燥	1	選択	1
		木材工学	3	選択	1
仕上げ・下地・乾式・湿式		3	選択	1	
単位数小計	木質構造および実験Ⅰ	3	選択	1.5	
26.5	8				
⑧建築生産 実務0～2年 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	社会基盤	1	選択	1
		木造基礎および実習Ⅱ	1	選択	1.5
		構造基礎および実習Ⅰ	1	選択	1.5
		構造基礎および実習Ⅳ	1	選択	1.5
		構造基礎および実習Ⅲ	1	選択	1.5
		仕上基礎および実習Ⅳ	1	選択	1.5
		建築生産	2	選択	1
		工程計画Ⅰ	2	選択	1
		工程計画Ⅱ	3	選択	1
		仕上基礎および実習Ⅱ	1	選択	1.5
		仕上基礎および実習Ⅲ	1	選択	1.5
		仕上基礎および実習Ⅴ	2	選択	1.5
		構造基礎および実習Ⅴ	2	選択	1.5
		鋼構造物応用および実習	2	選択	1.5
		RC施工	3	選択	1
		建設マネジメント	3	選択	1
		建設積算Ⅰ	3	選択	1
		建設積算Ⅱ	3	選択	1
		木造応用および実習Ⅰ	2	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅱ	2	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅲ	3	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅳ	3	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅴ	3	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅵ	3	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅶ	3	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅷ	3	選択	1.5
		RC構造物応用および実習Ⅰ	3	選択	1.5
		RC構造物応用および実習Ⅱ	3	選択	1.5
		RC構造物診断および実習	3	選択	1.5
		湿式仕上技能および実習	2	選択	1.5
乾式仕上技能および実習	2	選択	1.5		
外装仕上および実習Ⅰ	3	選択	1.5		
外装仕上および実習Ⅱ	3	選択	1.5		
単位数小計	単位数小計				
45.5	45.5				

建築士資格試験 指定科目一覧表

指定科目の分類 (単位数)		指定科目として承認された開講科目			
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
⑨建築法規 実務0～2年 (1単位以上) 単位数小計	⑨建築法規 (1単位以上) 単位数小計	建築法規Ⅰ	3	必修	1
		建築法規Ⅱ	3	選択	1
		建築法規Ⅲ	3	選択	1
3	3				
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	基礎設計製図および実習Ⅰ	1	選択	1.5
		木造基礎および実習Ⅲ	1	選択	1.5
		測量基礎および実習	1	選択	1.5
		安全工学	1	選択	1
		都市計画	1	選択	1
		測量Ⅰ	2	選択	1
		建設CADおよび実習Ⅲ	3	選択	1.5
		測量および実習Ⅰ	2	選択	1.5
		木造基礎および実習Ⅴ	2	選択	1.5
		建築士基礎インターンシップ	2	必修	8
		木割と規矩	2	選択	1
		ランドスケープ設計および実習Ⅰ	3	選択	1.5
		ランドスケープ設計および実習Ⅱ	3	選択	1.5
		造園・ガーデニング技法	3	選択	1
		建築構法	3	選択	1
		伝統構法構造物および実習Ⅰ	2	選択	1.5
		伝統構法構造物および実習Ⅱ	2	選択	1.5
		建築設備および実習	3	選択	1.5
		地盤調査土質実験および実習	3	選択	1.5
建築士専門インターンシップ	4	選択	8		
単位数小計	単位数小計				
40	40				
121.5	121.5	①～⑨の単位数合計			
161.5	161.5	総単位数(①～⑩の単位数合計)			

商業施設士補 指定科目一覧表

A群(学科試験に準拠)

区分	内容/考えられる科目の一例	充当する教科名	単位数
A-1 商業一般	商業一般に関する科目	建設マネジメント	1.0
		日本文化論	1.0
		単位数小計	2.0
A-2 業態計画	商業施設の構成に関する科目		
		単位数小計	
A-3 計画一般	商業施設の企画、商業施設の計画、法規、安全計画、展示・装置計画、設計に関する科目	都市計画	1.0
		人間工学	1.0
		日本建築史	1.0
		西洋建築史	1.0
		近現代建築史	1.0
		インテリア計画	1.0
		景観計画	1.0
		安全工学	1.0
		建築環境工学B	1.0
		建築設備工学B	1.0
		自然・都市	1.0
		単位数小計	11.0
A-4 施設計画	建築一般に関する科目	工程計画Ⅰ	1.0
		工程計画Ⅱ	1.0
		建築法規Ⅱ	1.0
		建築法規Ⅲ	1.0
		建設積算Ⅰ	1.0
		建設積算Ⅱ	1.0
		建築構法	1.0
		鉄筋コンクリート構造	1.0
		鋼構造	1.0
		構工法Ⅱ	1.0
		木材基礎	1.0
		木質材料および木材乾燥	1.0
		木材工学	1.0
		単位数小計	13.0
A-5 監理・施工	商空間の工事監理・施工に関する科目	仕上材料学	1.0
		仕上げ・下地・乾式・湿式	1.0
		RC施工	1.0
		仕上基礎および実習Ⅴ	1.5
		測量基礎および実習	1.5
		木質構造新工法	1.0
		木造応用および実習Ⅰ	1.5
		木造応用および実習Ⅱ	1.5
		木造応用および実習Ⅲ	1.5
		木造応用および実習Ⅳ	1.5
		木造応用および実習Ⅴ	1.5
		木造応用および実習Ⅵ	1.5
		木造応用および実習Ⅶ	1.5
		木造応用および実習Ⅷ	1.5
		木質構造および実験Ⅰ	1.5
		木質構造および実験Ⅱ	1.5
		木造基礎および実習Ⅰ	1.5
		木造基礎および実習Ⅱ	1.5

		木造基礎および実習Ⅲ	1.5
		木造基礎および実習Ⅳ	1.5
		構造基礎および実習Ⅰ	1.5
		構造基礎および実習Ⅱ	1.5
		構造基礎および実習Ⅲ	1.5
		湿式仕上技能および実習	1.5
		乾式仕上技能および実習	1.5
		家具技能および実習Ⅰ	1.5
		家具技能および実習Ⅱ	1.5
		家具技能および実習Ⅲ	1.5
		家具技能および実習Ⅳ	1.5
		家具技能および実習Ⅴ	1.5
		構造力学Ⅰ	1.0
		構造力学Ⅱ	1.0
		材料力学Ⅱ	1.0
		建築設備および実習	1.5
		地盤調査土質実験および実習	1.5
		RC構造物応用および実習Ⅰ	1.5
		RC構造物応用および実習Ⅱ	1.5
		伝統構法構造物および実習Ⅰ	1.5
		伝統構法構造物および実習Ⅱ	1.5
		単位小計	55.0
		A群の単位数合計	81.0

B群(構想表現(実技)試験に準拠)

区分	内容/考えられる科目の一例	充当する教科名	単位数
B-1 図案表現	設計・製図・CAD・CGなどにより、商業施設を構想し表現することに関する科目	木質構造設計演習Ⅰ	1.0
		木質構造設計演習Ⅱ	1.0
		基礎設計製図および実習Ⅰ	1.5
		基礎設計製図および実習Ⅱ	1.5
		基礎設計製図および実習Ⅲ	1.5
		基礎設計製図および実習Ⅳ	1.5
		建設CADおよび実習Ⅰ	1.5
		建設CADおよび実習Ⅱ	1.5
		建設CADおよび実習Ⅲ	1.5
		建築応用設計および実習Ⅰ	1.5
		建築応用設計および実習Ⅱ	1.5
		建築応用設計および実習Ⅲ	1.5
		建築応用設計および実習Ⅳ	1.5
		建築応用設計および実習Ⅴ	1.5
		建築応用設計および実習Ⅵ	1.5
		インテリア設計および実習	1.5
		ランドスケープ設計および実習Ⅰ	1.5
		木造住宅設計および実習Ⅰ	1.5
		木造住宅設計および実習Ⅱ	1.5
木造住宅設計および実習Ⅲ	1.5		
		単位小計	29.0
B-2 文章表現	プレゼン・マーケティング・コンサルにより、商業施設を構想し表現することに関する科目		
		単位小計	
		B群の単位数合計	29.0
		総単位数(A群とB群の合計)	110.0

※A群から計30単位以上+B群から4単位以上修得し、指定された商業施設に係る科目を修得し、商業施設士補講習会を受講修了すること

D. 教養教育

(2022 年度入学者適用)

I. カリキュラム (教育課程)

II. 授業科目

※授業に関しては毎年、一部変更が生じることがあるため、WEBシラバスにて常に最新情報を入手のうえ、履修計画を作成してください。

I. カリキュラム (教育課程)

I-1. 技能工芸学部 of ディプロマ・ポリシー	79
---------------------------	----

II. 授業科目

II-1. カリキュラムツリー	80
-----------------	----

I-1. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

本学を卒業するテクノロジストには、ものづくりへの誇りと真摯さを身につけ、自らに一流の仕事を要求し、常に基準を高く定め、ものづくりにアプローチすることが期待されている。そのために、テクノロジストとして必要な基礎学力、専門的知識、技術技能に合わせ、知識人としての教養教育を身につけさせて専門教育と両輪で育成する。

- ①ものづくりを実践することから得られる創意工夫する力（現場力）
- ②課題を見出しチームで協力したりリーダーとなって解決する力（課題設定・解決力、マネジメント力）
- ③困難に向き合い乗り越える力（耐力、胆力）
- ④異文化など多様性を受容、尊重でき、科学技術、社会経済のグローバル化に対応できる力（協調力）
- ⑤価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合える力（コミュニケーション力）

ディプロマ・ポリシーとの関連

群	授業科目	配当年次	①	②	③	④	⑤
ものづくり系科目群	安全衛生	1	○	○	○	○	○
	ICT 基礎および実習 I	1	○				
	ICT 基礎および実習 II	1	○				
	創作実習 A(夏期)	1	○		○		
	創作実習 B(夏期)	1	○		○		
	デザイン思考	1		○		○	○
	救命衛生法	1	○	○	○	○	○
ひとつづくり系科目群	ものづくり・ひとつづくり総合講義 A	1			○	○	○
	ものづくり・ひとつづくり総合講義 B	3			○	○	○
	社会人基礎力育成講座 I	1			○		○
	社会人基礎力育成講座 II	2		○	○		○
	社会人基礎力育成講座 III	3		○	○	○	
	社会人基礎力育成講座 IV	4		○	○	○	○
	スポーツ・コミュニケーション	1		○			○
リベラルアーツ系科目群	英語 I	1				○	
	英語 II	1				○	
	英語 III	2				○	
	SDGs-A	2				○	○
	SDGs-B	2				○	○
	言語と文化	3				○	○
	日本文化論	3				○	○
	文明と社会	3				○	○
	梅原猛で学ぶ学問と世界	4				○	○
	Drucker で学ぶマネジメント	4				○	○

II-1. カリキュラムツリー

この図は、教養教育の授業科目間の関連を学習内容の概要と共に示しています。

必修科目を含め12単位以上を修得することが求められています。

「ものづくり系科目群」「ひとづくり系科目群」「リベラルアーツ系科目群」からバランスよく履修計画を立てる際の参考にしてください。

学年	1年1Q	1年2Q	1年3Q	1年4Q	2年1Q	2年2Q	2年3Q	2年4Q	
課程	基礎課程								
ものづくり系科目群	安全衛生 (1) 大学での実習・実験時の安全衛生の確保、企業生活における安全衛生と健康の確保について、基礎知識・基本ルールを理解させます。	創作実習A(夏期) (1) 材料の加工特性を理解し、道具を用いて基本技法の体験を行い、テーマに沿った作品の製作を行う。陶芸、鍛金、彫金、ガラス工芸の実習を行う予定です。	創作実習B(夏期) (1)	デザイン思考 (1) IT機器やネットワーク環境の進化により人々の生活様式が劇的に変化していることに伴い、社会に存在する様々な課題やニーズを発見し、新しい「もの」や「サービス」のデザインを通じて解決策を創造することができる「デザイン思考」を駆使できる人材が求められています。本授業ではワークショップ形式を中心に、課題解決のためのデザインプロセスを体験し、その方法論を修得させます。	救命衛生法 (1) インターンシップに備え、心肺蘇生法、AEDの使い方、止血法、外傷の手当、傷病者の管理、搬送法などの手法について学ぶ。また、それらを学ぶ上で重要な人体の解剖生理学的な事象やメカニズムについても理解させます。				
ひとづくり系科目群	ICT基礎および実習Ⅰ (1) コンピュータリテラシーの素養を身につけることを主なねらいとしている。メールの基本操作、ネットワークの理解、Wordを用いた文書作成、Excelを用いた表計算、データサイエンスの入門としてMATLABを用いたデータ処理の演習を行う。また、Google Classroom、Googleカレンダー、Google drive、Google Formsなどの操作習得も含めて遠隔授業にも対応できる総合的な演習を行います。	ものづくり・ひとづくり総合講義A (2) スマホによる自撮り動画作成など日常的作業を通して、学び方を学ぶ授業です。なぜ学ぶべきかを振り出しとして、特につまづきを取り返すスキルを身につけます。これまでの「教育」「学習」についての思い込みを崩し、各自の学び方をカスタマイズします。	ICT基礎および実習Ⅱ (1) グラフィックス系ソフトウェアを習得して、WEBページ素材、ポスター、リーフレットなどの制作方法を学ばせます。	スポーツコミュニケーション (1) スポーツ・eスポーツなどの実践を通じて、自身の体力の程度を知るとともに、チームプレイをモデルに、共同によってそれぞれの得意な力を発揮して相互に協力することや、そのために必要な情報を的確に伝え、また役割分担をすることなどを学びます。	IT機器やネットワーク環境の進化により人々の生活様式が劇的に変化していることに伴い、社会に存在する様々な課題やニーズを発見し、新しい「もの」や「サービス」のデザインを通じて解決策を創造することができる「デザイン思考」を駆使できる人材が求められています。本授業ではワークショップ形式を中心に、課題解決のためのデザインプロセスを体験し、その方法論を修得させます。さらに、近代、現代のデザインの歴史や事例を学び、社会のニーズを発見して「ものづくり」を通じて「デザイン思考」を目指す姿勢を獲得させていきます。本授業で身に付けた、デザインによる課題解決の思考方法は情報メカトロニクス学科、建設学科、それぞれのデザイン系授業において応用展開を図ります。				
	社会人基礎力育成講座Ⅰ (1) 経済産業省が取りまとめた社会人基礎力を大学の授業と重ねながら学び、社会人基礎力を身に付けることを目的としています。 1年次は、主に3つの能力要素「主体性」「行動力」「発信力」に加えて「コミュニケーション」を付け、人を見る力(人から学ぶ力)・人に伝える力を養いながら、ものづくり大学で学ぶ意味と目指す人物像を理解しながら、次年度のインターンシップに備え、社会で生活する上での「マナー」「コミュニケーション」を鍛えるとともに、忍耐力やストレスコントロール力も鍛えていきます。 ※経済産業省が定める社会人基礎力 前に踏み出す力(主体性・働きかけ力・実行力)・考え抜く力(課題発見力・計画力・創造力)・チームで働く力(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力)の3つの能力・12の能力要素				社会人基礎力育成講座Ⅱ (1) 経済産業省が取りまとめた大学生活を通じて身につけ、学業を自分から取り組む姿勢を身につけることを目的としています。 2年次2Q開講の必修科目であるインターンシップを履修する上で必要となる社会人基礎力を身に付け、大学と異なる場所で学ぶために必要な能力を習得することも目的としています。 2年次は、主に3つの能力要素「傾聴力」「柔軟性」「規律性」を付け、人を見る力(人から学ぶ力)・人に伝える力を養いながら、1年次に身に付けた社会人基礎力を活かしながら、規律を守った行動や反省から次に繋げる学び方を学びます。				
					基礎インターンシップ 8単位				
リベラルアーツ系科目群			英語Ⅰ (2) 日常場面の英語表現を学び、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させます。また、TOEIC受験のための演習も行います。英語圏の文化や習慣に関する知識を深め異文化について知り、さらに日本語とは異なる英語の構造について理解させていきます。日常的によくある場面の会話表現を使えるよう練習をします。また、指定されたテーマについて調査し、英語でのプレゼンテーションを通じ、自分の考えを英語で話す機会を多く持つようにします。	英語Ⅱ (2) ◆グローバルなテーマについての英文を読み、映像を見て、リスニング・スピーキングを中心に4技能のコミュニケーション能力を総合的に伸ばします。 ◆グローバルな問題について、論理的に英語で自分の意見を述べられるようになり、国際人として活躍できる素地を作ります。 ◆人前で英語を使い効果的にプレゼンができるように練習して行きます。	英語Ⅲ (2) 技術分野の英語を学習し、4技能(Listening, Speaking, Reading, Writing)のコミュニケーション能力を総合的に伸ばします。特に、技術分野の基本的な語彙を身につけ、技術分野の文章の特徴を学び、読む練習を行います。また、技術分野のテーマを題材に英語で口頭発表を行う練習をします。	SDGs-A (1) SDGsの概論です。指定教科書の講義を通して、その成立経緯や基本概念などを概観した上で、具体的事例を取り上げます。	SDGs-B (1) SDGsの概論を踏まえ、受講生が入学前に学んだ理科・社会その他の知識を更新し、理解を深めます。環境・開発・国際理解・市民性育成など、人間生活に関連する多領域へ関わるSDGsは、専門的知識以上に、これまで蓄積した知識の更新が不可欠です。SDGsの前提知識をおさらいするのみならず、知識更新のスキルを身につけることができます。		
(データサイエンス・リテラシー)	2023年度～をターゲットに								

3年1Q	3年2Q	3年3Q	3年4Q	4年1Q	4年2Q	4年3Q	4年4Q
応用課程				専門研究課程			

＜教養教育のねらい＞

専門を活かす能力＝『教養』を培う

インターシップ前後での教育積み上げ

教養科目コース

2年2Q

前半	基礎 イン ター シ ッ プ	後半
◇スタディスキルの習得 を中軸に学びの姿勢 を体得		◇一般教養を包摂 ◇リベラルアーツ教育 を積み上げ
社会人基礎力養成講座		

ものづくり・ひと
づくり総合講義B (1)

この講義では、学び方の中でも、いかに「問い」を立てるかについて、学びます。より専門的に学びを深めるため、知らず識らずに身につけてしまった学び方をチューニングし直します。受講生同士の日常的行為を反省的に捉え直し、特に日常的行為としての「読む」「書く」を鍛え直します。

社会人基礎力養成講座Ⅲ (1)

経済産業省が取りまとめた社会人基礎力を大学生活を通じて身につけ、学業を自分から取り組む姿勢を身につけることを目的としています。
3年次は、主に5つの能力要素「課題発見力」「計画力」「創造力」「状況把握力」「ストレスコントロール力」を付け、自ら考える力・行動する力を養いながら、将来への確かな経験へと繋げるための準備を進めていきます。
就職活動の開始時期と重なることも踏まえ、新しい環境に対応するための、忍耐力やストレスコントロール力への理解をさらに、深めていきます。

社会人基礎力養成講座Ⅳ (1)

経済産業省が取りまとめた社会人基礎力を確認し、身につけることを目的としています。
4年次は、3年間学んで来た「人を見る力（人から学ぶ力）・人に伝える力」「自ら考える力・行動する力」「課題・目標の設定の仕方」を通して社会人基礎力を振り返りながら、将来への確かな経験へと繋げる準備をさらに進め、大学を卒業後に必要な社会人力の修得を目指します。

言語と文化 (1)

本授業では、言葉や文化ということを中心に、異文化理解の観点から、人文科学を学びます。また、グローバルな視点や国際性を学ぶことを目的とします。1つの問題を特定の分野に限らず、さまざまな視点から多角的に認識することの重要性を学び、学際性・国際性のある視点から他者と議論する姿勢を身につけ、自分の考えをしっかりと表すことを学びます。

日本文化論 (1)

アカデミック寄りの一般書をテキストとして、それを理解するための前提を概観し、日本文化論について理解を深めます。上級学年で開講される本学独自講義「梅原猛で学ぶ学問と世界」をより深く学ぶためにも、押さえておくべき科目です。

文明と社会 (1)

アカデミック寄りの一般書をテキストとして、それを理解するための前提を概観し、社会科学系統の一般教養について理解を深めます。上級学年で開講される本学独自講義「Druckerで学ぶマネジメント」をより深く学ぶためにも、押さえておくべき科目です。

梅原猛で学ぶ学問と世界 (1)

本学の命名者・梅原猛が着手した広大な諸領域を概観しつつ、世界文明における本学（卒業生含む）の使命を学びます。

Druckerで学ぶマネジメント (1)

個々の働き手の能力とやる気を引き出し、人間の可能性を開花させるとともに、社会的存在としての組織の目的の実現に個人が協同して成果をあげる、というドラッカーのマネジメント論の原理を理解します。

授業内容の検討を進める

E. 特色ある科目

(2022 年度入学者適用)

基礎インターンシップ

社会人基礎力育成講座

基礎インターンシップ

インターンシップは、実働 40 日間の就業体験を通して、将来どのような仕事に就きたいか考える機会となります。インターンシップを通して学んだ知識や技術を踏まえ、どの専門コースを履修するかを考える機会ともなります。また、インターンシップでは、実際の仕事に触れ、インターンシップ先と同様の業種を将来の就職先として志望するのか、違う業界を検討するのか考える期間が約 2 年間確保されているため、しっかりと将来を考えることができます。

インターンシップ先は、1 年次の冬には検討することとなりますので、入学時から様々な授業を通して、どのような業界でどんなことを体験したいか考えていくことが大切です。

インターンシップを履修するための心構えや事前に準備しておくこと、学んでおくことなどは、説明会などで随時説明があります。それまでに、しっかりと準備をする上で、社会人基礎力育成講座を受講しておくことが大切になります。

(インターンシップの主な流れ)

【1 年次】

12月 インターンシップ説明会
1月 希望調査
仮配属
書類の作成
2月 教員との面談

【2 年次】

5月 事前セミナー
安全セミナー
マナーセミナー
(木工機械安全衛生講習 (対象者のみ))
6月 インターンシップ開始
8月 インターンシップ終了
報告書作成

(インターンシップを終えて (卒業生のコメント))

洗濯機や超低温フリーザやコンプレッサーなどを、製造している電機会社に行きました。そこで、加工、生産、検査、品質といった一からの生産の流れを学生時代のうちに体で実際に学ぶことができ、大変勉強になりました。

インターンシップでは、WEB の制作の企画→設計→作成→報告の一通りの経験をさせて頂きました。インターンシップを受ける前は、設計→作成の工程が最も重要と考えていたのですが、企画と報告の工程が更に重要という、実際に業務を行わなければ気付かなかったことを経験し知ることができました。

車の部品メーカーの製造ラインに入れてもらい、製造現場を知ることができ、自分が製造した物が製品となる喜びを知る事が出来た。実際の作業者と意見交換でき、正直しんどかったけど、今となってはいい経験が出来たと思う。経験はお金じゃ買えないと、現在も感じている。

2 年次は新築マンションのアフターメンテナンスの現場に行き、お客様からの要望・苦情への対応等の厳しさを知った。4 年次は現在勤務している会社がインターンシップ先で、これがきっかけで今の会社に就職することになったので、インターンシップは会社や仕事を知るいい機会だと思う。

インターンシップに行ったことで、今の就職先に就職することが出来ました。インターンシップでは、現場監督の仕事を体験し、仕事をする事の楽しさや辛さを体で感じられました。インターンシップに行ったことで、就職してからの覚悟も事前に出来たと思います。

社会人基礎力育成講義 I～IV

社会人基礎力育成講座は、1年生から4年生まで年間を通して開講される通年科目です。

社会人基礎力育成講座は、経済産業省が取りまとめた社会人基礎力（大学卒業時に身に付けておくべき3つの能力12の能力要素）を大学の授業と重ねながら学び、社会に出るまでに少しずつ学ぶことができる講義です。この科目は、両学科の学生が意見交換する場でもあり、お互いが学ぶ授業を知ることで、自身が学んでいることの特性などの理解を深めることができます。

【1～2年次】

「やりたいこと」「聞きたいこと」「言いたいこと」
を人に伝えられるようになる

人を見る力

教職員（特にプロフェッショナルな非常勤）の行動を見て、学び、自身との違いを感じる

人に伝える力

見る力で感じた、人との違いを人に伝える・話することによって、自身の長所や短所を理解する。

※2年次の社会人基礎力育成講座は、必修科目です。
※2年次必修科目のインターンシップを履修する前に、学外の人への対応方法や学ぶ姿勢を理解し、終了後には、「働くこと」の意味を見つめ直し、より深く考えられるようになります。

【3年次】

大人になる意味を考えて、自立する。

考える力

今まで学んだことの大切さを認識し、次のステップに進むために自身で自身を見つける。

行動する力

自身の力を磨くために必要なことを判断し、行動を起こす。

【4年次】

社会人になるための準備をする。

協力する力

仲間と協力することにより、協調性や柔軟性を養う。

感じる力

言葉の向こう側を感じる、感覚を養う。

2022年4月には18歳が成人として認められるようになりました。大学生である皆さんは、大人の自覚を持って学生生活を過ごすことが必要となります。高校では定められた授業を履修し、部活動なども顧問の先生の指示を仰ぎながら活動をします。つまり、学校の先生や保護者に守られていました。しかし、大学生は、自分の意思で選択することが必要となります。授業も学生個々で時間割が異なりますし、部活動も学生同士で運営しなくてはなりません。そういった、大学生活でも必要となる大人の階段を、ひとつひとつ仲間と一緒に上り、お互いが協力して社会人になる準備をするために、社会人基礎力育成講座は開講されています。

講義の内容は、一般的な事柄も多く軽視されがちですが、意外と知らないことや知っている様で誤解していることなど、普段の生活では気付きにくいもの・ことを一つ一つ分かりやすく解説します。これは、授業の内容でも同様のことが言えます。社会人基礎力育成講座を通して、学生生活での学びをより深める機会としてください。

経済産業省が定義している

《3つの能力／12の能力要素》

考え抜く力 (シンキング)	チームで働く力 (チームワーク)	前に踏み出す力 (アクション)
<ul style="list-style-type: none"> 課題発見力 計画力 創造力 	<ul style="list-style-type: none"> 発信力 柔軟性 状況把握力 ストレスコントロール力 傾聴力 規律性 	<ul style="list-style-type: none"> 主体性 働きかけ力 実行力

No.

Name

--	--